

講義概要



授業計画

科目名	授業の到達目標及びテーマ
空海の思想入門	到達目標：弘法大師空海の密教思想を学ぶための基礎的な知識を身につける テーマ：弘法大師空海とその密教思想
学期	授業の概要
前期	本講義は文学部共通の「建学の精神」科目で、全学生必須である。本学でどのような分野を専攻するにしても、最初に弘法大師空海とその密教思想の概要を学んでおくことは、弘法大師の教育理念に基づく高野山大学で学ぶことの意義を確認でき、より実り多い勉学生活を過ごすことが可能であるからである。大師の著作のいくつかを具体的に取りあげて概観し、大師の密教思想を学ぶ。
単位数	授業計画
2	1. はじめに（オリエンテーション） 2. 密教の種々相（日本密教とチベット密教） 3. 高野山の開創とその意義 4. 弘法大師の生涯（略説） 5. 大師の教育観（『綜芸種智院式』） 6. 三教の比較思想論（『聲響指帰』『三教指帰』） 7. 真言密教の相承者の系譜と伝記（『広付法伝』『略付法伝』） 8. 顕教と密教（『弁顕密二教論』） 9. 密教の成仏論（『即身成仏義』） 10. 十段階の心のあり方（『十住心論』『秘蔵宝鑰』） 11. 密教経典としての般若心経（『般若心経秘鍵』） 12. 大師の戒律思想（『三昧耶戒序』『梵網経解題』） 13. おわりに（まとめ）
担当者	テキスト
藤田光寛	授業中に適宜指示する。
	参考書・参考資料等
	① 松長有慶『密教』（岩波新書） ② 『弘法大師空海全集』（筑摩書房）など 授業中で適宜指示する。
	学生に対する評価
	期末のレポート試験（60%）、平常点（20%）、小テスト（20%）によって評価する。
	その他
	毎回休まずに出席することを望みます。少なくとも、授業実数の三分の一以上欠席すれば失格です。 担当者のメールアドレスは fujita@koyasan-u.ac.jp です。質問などに遠慮無く利用して下さい。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標： テーマ：
学期	授業の概要
単位数	授業計画
2	テキスト
担当者	参考書・参考資料等
	学生に対する評価
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
英語 I A (TOEIC)	到達目標： テーマ：基礎的な読解能力を養う
学期	授業の概要
通年	基本的な英文法を再確認するとともに、易しい英文を読み読解力を養う。
単位数	授業計画
2	【前期】 1. 予習、復習、授業の進め方について説明する。 2. Freeters and NEETs 3. 同上 4. Low Birth Rate 5. 同上 6. Working Poor 7. 同上 8. Net Café Refugee 9. 同上 10. Loser Dog 11. 同上 12. False Accusation 13. 同上 14. Hikikomori 15. 同上 【後期】 1. Cults 2. 同上 3. Baby Boomers Retire 4. 同上 5. Immigration 6. 同上 7. Telecommuting 8. 同上 9. Buying Organs 10. 同上 11. Surrogate Mothers 12. 同上 13. Baby Hatch 14. 同上 15. Eating Disorder
担当者	テキスト
高倉正行	Keywords for Japan (センゲージラーニング、Paul Stapleton) ISBN 978-4-86312-043-3
	参考書・参考資料等
	学生に対する評価
	出席状況と授業態度、前期後期試験を加味して行う。
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
英語 I B	到達目標：1年間の授業で、それまでコマ付きの自転車に乗っていた子供が、コマを外してしばらく練習した後で、「今コマ無しで走っているよ」と実感できるような、その程度にまでもっていく。 テーマ：【前期】高校までに習った英語を活性化させる。 【後期】英文法の初歩習得
学期	授業の概要
通年	受講生は誰もが最低限6年間の英語学習を経ているはずである。本授業では受講生に関わった中学・高校英語教師の努力に報いるために尽力する。つまり勉強した事柄の想起・活性化・定着である。
単位数	授業計画
2	テキストに沿って行う。
担当者	テキスト
静春樹	南雲堂 What a Story! (文法・単語で学ぶやさしいパラグラフ・リーディング)。 テキストを持たない学生の受講は認めません。
	参考書・参考資料等
	必要に応じて指示
	学生に対する評価
	前期テスト（50%）、後期テスト（50%）。出席日数が足りている学生のみ受験可能
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ	科目名	授業の到達目標及びテーマ
英語 I C 1 (再履修) / 英語 I C 2 (再履修)	到達目標： テーマ：英文の基本的構文の習得	英語 II A 1 (TOEIC) / 英語 II A 2 (TOEIC)	到達目標： テーマ：長文を読みこなす。
学期	授業の概要 基礎英文法を学ぶ。	学期	授業の概要 世界のトップ企業の説明を読んだ後、理解度を深める練習問題をやっていきます。
前期 通年 後期	授業計画 【前期】 1. 授業の進め方、評価の仕方、予習・復習の仕方等について説明。 2. 動詞と文型 3. 同上 4. 文の種類 5. 同上 6. 動詞と時制 7. 同上 8. 完了形 9. 同上 10. 態 11. 同上 12. 不定詞 13. 同上 14. 動名詞 15. 同上 【後期】 1. 分詞 2. 同上 3. 分詞構文 4. 同上 5. 比較 6. 同上 7. 関係詞 (1) 8. 同上 9. 関係詞 (2) 10. 同上 11. 仮定法 12. 同上 13. 時制の一致と話法 14. 同上 15. 総括	前期 通年 後期	授業計画 【前期】 1. 予習、復習、授業の進め方について説明する。 2. Sony 3. 同上 4. Sam Walton 5. 同上 6. IKEA 7. 同上 8. Andrew Carnegie 9. 同上 10. Anita Roddick 11. 同上 12. Google Power 13. 同上 14. Amazon 15. 同上 【後期】 1. Azim Premji 2. 同上 3. Skype 4. 同上 5. EBay 6. 同上 7. Starbucks 8. 同上 9. Lenova 10. 同上 11. MTN 12. 同上 13. Apple's Ipad 14. 同上 15. BHP Billiton
単位数	テキスト 最初の授業で指示します。	単位数	テキスト Bottom Line Business Stories (成美堂、嶋林昭治) ISBN 978-4-7919-5083-6
1 2 1	担当者 参考書・参考資料等	1 2 1	担当者 参考書・参考資料等
高倉正行	学生に対する評価 出席状況と授業態度、前期試験・後期試験を加味して行う。	高倉正行	学生に対する評価 出席状況と授業態度、前期後期試験を加味して行う。
	その他		その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ	科目名	授業の到達目標及びテーマ
英語 II B 1 (TOEIC) / 英語 II B 2 (TOEIC)	到達目標： 【前期】「文法」つまり基本的な「文のしくみ」に焦点を合わせる。 【後期】英語に限らずすべての言語は「音声」「文法」「語彙（単語力）」の三つのアプリケーションから成ると言っても過言ではない。授業では「文のしくみ」に焦点を合わせる。 テーマ： 【前期】高校までに習った英語を活性化させる。 【後期】英文法の初歩習得。	英語 II C 1 (再履修) / 英語 II C 2 (再履修)	到達目標： テーマ：英文の基本的構文の習得
学期	授業の概要 授業計画が成立するのは受講生の習得水準が一定の幅に揃っている場合である。本授業の場合、プレイスメントテストがなく、およそ「不揃いな受講生」を相手にしなければならない。従って、授業はあくまで各受講生の力に合わせた個別的な指導となる。 勉学の基礎は自学自習である。教師は各受講生の力量・つまずきの箇所・壁を判断し個別に指導する。	学期	授業の概要 英文の基本構造を学びつつ、沢山の練習問題を行います。
前期 通年 後期	授業計画 テキストをユニット0から各自が徹底的に勉強し、教師に理解したと判断された場合に次のユニットへ進む。	前期 通年 後期	授業計画 【前期】 1. 不定詞 (1) 2. 不定詞 (2) 3. 分詞 4. 動名詞 5. 動名詞と不定詞 6. 時制 7. 未来時を表す表現 8. 進行形 9. 完了形 10. 態 11. 仮定法 (1) 12. 仮定法 (2) 13. 比較構文 14. 否定 15. 名詞 【後期】 1. 代名詞 (1) 2. 代名詞 (2) 3. 形容詞 4. 冠詞 5. 数量詞 6. 副詞 7. 動詞 8. 法助動詞 (1) 9. 法助動詞 (2) 10. 前置詞 (1) 11. 前置詞 (2) 12. 前置詞 (3) 13. 接続詞 14. 関係詞 (1) 15. 関係詞 (2)
単位数	テキスト 南雲堂 First Voyage (大学基本英文法&リーディング)。 テキストを持たない学生の受講は認めません。	単位数	テキスト 最初の授業で指示します。
1 2 1	参考書・参考資料等 必要に応じて指示	1 1 1	参考書・参考資料等
静	学生に対する評価 出席点 (50%)、期末テスト (50%)	高倉正行	学生に対する評価 出席状況と授業態度、前期試験・後期試験を加味して行う。
春樹	その他 「文の仕組み」は人体に喩えると、骨格に相当します。習得言語の場合 (母語でないこと)、これをインストールしないと自力で歩くことが出来ません。		その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 他人の言いたいことを的確に把握できるようにすること、自分の言いたいことを的確に展開できるようにすること。	
	授業の概要 大学では、多くの専門的な本を読み、それをもとにレポートを書き、最終的には卒業論文に取り組みます。そのためには専門的知識を身につけると共に論理的に構成された文章を、正確に把握できるようにすることが不可欠です。この講義では新入生を対象として、そのためのトレーニングを実施します。	
日本語 A・B・C	授業計画 【前期】 1. ガイダンス 2. 「自分史」を書く 3. 「自分史」を読む・聞く 4. 文章読解の練習 (1) ー漢字の役割 5. 文章読解の練習 (2) ー辞書の使い方 6. 文章読解の練習 (3) ー文のつなぎ方その1 7. 文章読解の練習 (4) ー文のつなぎ方その2 8. 文章読解の練習 (5) ー文のつなぎ方その3 9. 文章読解の練習 (6) ー文のつなぎ方その4 10. レポートの作り方 (1) 11. レポートの作り方 (2) 12. レポートの作り方 (3) 13. レポートの作り方 (4) 14. レポートの作り方 (5) 15. 他人のレポートを読んで意見を述べる 【後期】 1. ガイダンス 2. 自分の意見を書く (1) ー必要な材料の収集 3. 自分の意見を書く (2) ー言いたいことの整理 4. 自分の意見を書く (3) ー予想される反論 5. 自分の意見を書く (4) ーインパクトのある構成 6. 自分の意見を書く (5) ー実際に書いてみる 7. 引用のポイント (1) ー複数の他人の意見を紹介する 8. 引用のポイント (2) ーフェアな紹介とは 9. 引用のポイント (3) ーフェアな批判とは 10. 引用のポイント (4) ー引用と自説の展開 11. レポートの作り方 (1) 12. レポートの作り方 (2) 13. レポートの作り方 (3) 14. レポートの作り方 (4) 15. レポートの相互批評	
	※プログラムは改訂される場合があります。	
学期 前期・後期 通年	テキスト 大学で用意したものを配布します。	
単位数 2 4 2	参考書・参考資料等 国語辞典・漢和辞典を持参してください (電子辞書も可)。	
担当者 CBA 山南藤吉 脇昌圭 雅昌二 夫宏二	学生に対する評価 平常点 40%、課題提出 40%、課題のできばえ 20% で評価します。	
	その他 ・トレーニングは大変かもしれませんが、その成果は必ずみなさんの財産になります。へこたれず、楽しくやっていきましょう。 ・この授業で練習することは、これからの勉強だけでなく、卒業後の就職準備、社会人になってからの色々な場面で応用できることです。自分から積極的に活用してってください。	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 他人の言いたいことを的確に把握できるようにすること、自分の言いたいことを的確に展開できるようにすること。
日 本 語 Ⅱ D D	授業の概要 大学では、多くの専門的な本を読み、それをもとにレポートを書き、最終的には卒業論文に取り組みます。そのためには専門的知識を身につけると共に論理的に構成された文章を、正確に把握できるようにすることが不可欠です。この講義では新入生を対象として、そのためのトレーニングを実施します。
[再履修] [再履修]	授業計画 【前期】 1. ガイダンス 2. 「自分史」を書く 3. 「自分史」を読む・聞く 4. 文章統解の練習 (1) －漢字の役割 5. 文章統解の練習 (2) －辞書の使い方 6. 文章統解の練習 (3) －文のつなぎ方その1 7. 文章統解の練習 (4) －文のつなぎ方その2 8. 文章統解の練習 (5) －文のつなぎ方その3 9. 文章統解の練習 (6) －文のつなぎ方その4 10. レポートの作り方 (1) 11. レポートの作り方 (2) 12. レポートの作り方 (3) 13. レポートの作り方 (4) 14. レポートの作り方 (5) 15. 他人のレポートを読んで意見を述べる 【後期】 1. ガイダンス 2. 自分の意見を書く (1) －必要な材料の収集 3. 自分の意見を書く (2) －言い回しなどの整理 4. 自分の意見を書く (3) －予想される反論 5. 自分の意見を書く (4) －インパクトのある構成 6. 自分の意見を書く (5) －実際に書いてみる 7. 引用のポイント (1) －複数の他人の意見を紹介する 8. 引用のポイント (2) －フェアな紹介とは 9. 引用のポイント (3) －フェアな批判とは 10. 引用のポイント (4) －引用と自説の展開 11. レポートの作り方 (1) 12. レポートの作り方 (2) 13. レポートの作り方 (3) 14. レポートの作り方 (4) 15. レポートの相互批評
学期	
前期 通年 後期	
単位数	※プログラムは改訂される場合があります。
2 + 2	テキスト 大学で用意したものを配布します。
担当者	参考書・参考資料等 国語辞典・漢和辞典を持参してください (電子辞書も可)。
藤 吉 圭 二	学生に対する評価 平常点 40%、課題提出 40%、課題のできばえ 20% で評価します。
	その他 ・トレーニングは大変かもしれませんが、その成果は必ずみなさんの財産になります。へこたれず、楽しくやってみましょう。 ・この授業で練習することは、これからの勉強だけでなく、卒業後の就職準備、社会人になってからの色々な場面で応用できることです。自分から積極的に活用してってください。

科目名	授業の到達目標及びテーマ	
	到達目標： テーマ：人々の哲学	
現代思想 (別)	授業の概要 「人の間」と書いて「人間」と読むことは、私たち人間にとっての人の人とかかわりが本質的であることをよく示していると思われます。この授業では、人間関係に関する哲学的問題を中心に、現代に生きていくために必要な思想は何かを考えます。	
	授業計画 1. 赤ちゃんの人間認識 2. 対人関係と言葉 3. 自他の境界 4. いじめ 5. 「自分」の定義 6. 「愛」の諸相 7. 聴くことの力 8. 理解と誤解 9. 自己犠牲は可能か？ 10. 待つことの意味 11. 人間関係と時間 12. 死者との共存 13. 切れ字の存在論 14. 実存 15. 住まうこと	
学期		
前期		
単位数		
2	テキスト なし。	
担当者	参考書・参考資料等 授業中に指示。	
山脇雅夫	学生に対する評価 期末テスト 65 点、小テスト 20 点、平常点 15 点 その他	

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標：「スピリチュアルケア」の前世紀末（1990年代）からの流れを学び、今後の展望について宗教とのかかわりから捉えることに見据えて、受講生自らの考えを見出すこと テーマ：人のいのちと意識を巡る諸問題
人間と宗教	授業の概要 個人に係わるスピリチュアリティ／「霊性」と、社会的合意形成の許で組織される集団の実効性を伴って機能するケア／援助、この個人と社会との関係性の問題を基本的な視点に据え「スピリチュアルケア」について概説するとともに、人のいのちと意識の有り様について、一方で仏教・密教の教えの観点から、他方で現代医療の観点から考えてみたい。
	授業計画 1. 導入（「共感」する／できる／し合う、ということについて） 2. 「スピリチュアルケア」という考え方の流れについて 3. ケアについての概説（「介助」・「介在」の「介」と“being with”についてなど） 4. 「ケア」の安全網から抜け落ちる人々について（「無縁死」・「孤族」という造語について） 5. スピリチュアリティについての概説（「仮想スピリチュアリティ」という考え方についてなど） 6. 「霊性」と、人のいのちと意識の有り様について〔仏教の観点から〕 7. （同上）〔現代医療の観点から〕 8. 和歌山県立医科大学からの特別講師による授業 9. （同上。ただし、日程については学内掲示に注意すること。） 10. 上記特別講義の復習と展開 11. グリーフ・ケア（悲嘆へのケア）について 12. （同上） 13. 仏教的観点から見た、何を畏れることなく生きて行けば良いのかという観方について 14. まとめ 15. 学期末試験
学期	
前期	
単位数	
2	
担当者	テキスト 特に指定しない。参考資料を、適宜、コピー配布する。
室 寺 義 仁	参考書・参考資料等 授業の中で適宜紹介する。
	学生に対する評価 学期末の論述試験（60％）と、平常点（40％：個々の授業内容に対する短い感想文の提出を適宜求める）をもって評価する。
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
ブッダの思想入門	到達目標：仏教思想の基礎を習得することを目標とする。 テーマ：最古の仏典から釈尊の教えを学ぶ。
学期	授業の概要
前期	釈尊が創始した仏教の原形は、二千年以上もの長い歴史を経て多様に変容してきた。授業では今一度、釈尊の教えにさかのぼり、原典に耳を傾け、その意図を正確に理解し、現代的な意義を見つめ直す。特に最古の仏典といわれる『スッタニパータ』の「彼岸に至る道の章」について、パーリ語原典と現代語訳を付き合わせながら精読し、仏教最古の教えを再発見する。
単位数	授業計画
2	1. 導入 2. 原始仏典概説 (1) 3. 原始仏典概説 (2) 4. 釈尊の教え (1) 5. 釈尊の教え (2) 6. 釈尊の教え (3) 7. 釈尊の教え (4) 8. 『スッタニパータ』を読む (1) 9. 『スッタニパータ』を読む (2) 10. 『スッタニパータ』を読む (3) 11. 『スッタニパータ』を読む (4) 12. 『スッタニパータ』を読む (5) 13. 『スッタニパータ』を読む (6) 13. 『スッタニパータ』を読む (7) 14. 『スッタニパータ』を読む (8) 15. 総括
担当者	テキスト
加納和雄	授業において指示します。
	参考書・参考資料等
	中村元、『ブッダのことば』、岩波文庫。 並川孝儀、『書物誕生、あたらしい古典入門・スッタニパータ』 岩波書店。
	学生に対する評価
	授業中の発表など 30%、出席 40%、テスト 40%
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
スピリチュアルケア入門	到達目標：「スピリチュアルケア」の前世紀末（1990年代）からの流れを学び、今後の展望について宗教とのかかわりから捉えることに見据えて、受講生自らの考えを見出すこと テーマ：人のいのちと意識を巡る諸問題
学期	授業の概要
前期	個人に係わるスピリチュアリティ／「霊性」と、社会的合意形成の許で組織される集団の実効性を伴って機能するケア／援助、この個人と社会との関係性の問題を基本的な視点に据え「スピリチュアルケア」について概説するとともに、人のいのちと意識の有り様について、一方で仏教・密教の教えの観点から、他方で現代医療の観点から考えてみたい。
単位数	授業計画
2	1. 導入（「共感」する／できる／し合う、ということについて） 2. 「スピリチュアルケア」という考え方の流れについて 3. ケアについての概説（「介助」・「介在」の「介」と“being with”についてなど） 4. 「ケア」の安全網から抜け落ちる人々について（「無縁死」・「孤族」という造語について） 5. スピリチュアリティについての概説（「仮想スピリチュアリティ」という考え方についてなど） 6. 「霊性」と、人のいのちと意識の有り様について（仏教の観点から） 7. （同上）〔現代医療の観点から〕 8. 和歌山県立医科大学からの特別講師による授業 9. （同上。ただし、日程については学内掲示に注意すること。） 10. 上記特別講義の復習と展開 11. グリーフ・ケア（悲嘆へのケア）について 12. （同上） 13. 仏教的観点から見た、何を畏れることなく生きて行けば良いのかという観点について 14. まとめ 15. 学期末試験
担当者	テキスト
室寺義仁	特に指定しない。参考資料を、適宜、コピー配布する。
	参考書・参考資料等
	授業の中で適宜紹介する。
	学生に対する評価
	学期末の論述試験（60%）と、平常点（40%：個々の授業内容に対する短い感想文の提出を適宜求める）をもって評価する。
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標： テーマ：
学期	授業の概要
単位数	授業計画
2	テキスト
担当者	参考書・参考資料等
	学生に対する評価
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標： テーマ：
学期	授業の概要
単位数	授業計画
2	テキスト
担当者	参考書・参考資料等
	学生に対する評価
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：新・旧の漢字に関する区別や理解ができ、漢文を読めるようになることや高野山の伝統的な読み方に熟達することを目的とする。 テーマ：『声字実相義』の素読	
	授業の概要 素読とは、古典の原文を幾度となく繰り返して読み、それを書物を用いなくて誤りなく言うことができる学習法の一つ、と辞書などに紹介されている。真言宗で古来から行われてきた方法によって、弘法大師の思想に直接触れることにする。	
十卷章素読Ⅰ	授業計画 1. 講義内容の説明 2. 『声字実相義』の素読① 3. 『声字実相義』の素読② 4. 『声字実相義』の素読③ 5. 『声字実相義』の素読④ 6. 『声字実相義』の素読⑤ 7. 『声字実相義』の素読⑥ 8. 『声字実相義』の素読⑦ 9. 『声字実相義』の素読⑧ 10. 『声字実相義』の素読⑨ 11. 『声字実相義』の素読⑩ 12. 『声字実相義』の素読⑪ 13. 『声字実相義』の素読⑫ 14. 『声字実相義』の素読⑬ 15. 講義の総括	
	学期	前期
単位数	2	
担当者	テキスト 『十卷章』高野山大学出版部 参考書・参考資料等 中川善教著『漢和対照十卷章』高野山出版社	
中村本然	学生に対する評価 平常点40%、試験60%とし、総合的に評価する。 その他	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：新・旧の漢字に関する区別や理解ができ、漢文を読めるようになることや高野山の伝統的な読み方に熟達することを目指すとする。 テーマ：『菩提心論』の素読	
	授業の概要 前期の「十巻章素読」と同様に、真言宗で古来から行われてきた方法によって、弘法大師の思想に直接触れることにする。	
十巻章素読Ⅱ	授業計画 1. 講義内容の説明 2. 『菩提心論』の素読① 3. 『菩提心論』の素読② 4. 『菩提心論』の素読③ 5. 『菩提心論』の素読④ 6. 『菩提心論』の素読⑤ 7. 『菩提心論』の素読⑥ 8. 『菩提心論』の素読⑦ 9. 『菩提心論』の素読⑧ 10. 『菩提心論』の素読⑨ 11. 『菩提心論』の素読⑩ 12. 『菩提心論』の素読⑪ 13. 『菩提心論』の素読⑫ 14. 『菩提心論』の素読⑬ 15. 講義の総括	
	学期	後期
単位数	2	
担当者	テキスト 『十巻章』高野山大学出版部 参考書・参考資料等 中川善教著『漢和対照十巻章』高野山出版社	
中村本然	学生に対する評価 平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。 その他	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標： 1、楷書体のそれぞれの法帖を自分の目で比較分析し、その後自分で選んだ書風にて写経用紙に般若心経を創作表現する。 2、正字、俗字の違いを理解する。 テーマ： - 一回生……唐代楷書：顔真卿『多寶塔碑』、褚遂良『雁塔聖教序』。 - 二回生以上……北魏系楷書『張猛龍碑』、『張玄墓誌』。	
	漢字 I 1	授業の概要 本講座は基本的に古典臨書を根拠とし、形臨、背臨を経て、学生同士が切磋琢磨し作品制作を行う。方法としては、国内の他大学にはない日本と中国の書学をミックスした指導を行う。
		授業計画 1. オリエンテーション 2～4. 顔真卿『多寶塔碑』（二回生以上は『張猛龍碑』の反復臨書。 5～7. 褚遂良『雁塔聖教序』（二回生以上は『張玄墓誌』） *前半半紙臨書作品の提出。
		8～10. 半紙4文字3行にて『多寶塔碑』・『雁塔聖教序』を交互に書き比べる（二回生以上は『張猛龍碑』・『張玄墓誌』）。 11. 書風をひとつに絞って中楷、小楷の反復練習。 12～15. 自分の決めた書風にて、写経用紙に般若心経を書く。最後は互評会と後半半紙作品提出。
学期	テキスト ・二玄社法書選（二玄社）： - 顔真卿『多寶塔碑』、34 褚遂良『雁塔聖教序』（一回生） 23『張猛龍碑』、26『墓誌銘集・下』（二回生以上） ・写経用紙セット LA26-59 を大学生協にて購入の事。 ・その他、必要に応じてプリントを配布する。	
単位数	参考書・参考資料等 字書：『字源』、伏見冲敬編『書道字典』（角川書店）等	
1	学生に対する評価 ・基本的に提出物（毎回の課題も含む）をそのまま評価する。 ・前期の授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。 ・遅刻・早退は欠席の3分の1として計算する。	
担当者	その他 ・筆（太筆・細筆2本）、墨（原則として墨汁は許可しない）、半紙用毛氈、文鎮は個々に準備のこと。また創作用の筆 ・書道実技の講座として、毎回の課題が課される。 ・授業以外での個々の練習量は、評価に大きく左右されることを心得て望むこと。	
野田 悟		

科目名	漢字Ⅰ		漢字Ⅰ	
	漢字Ⅰ		漢字Ⅰ	
	漢字Ⅰ		漢字Ⅰ	
	漢字Ⅰ		漢字Ⅰ	
学期	後期		後期	
	後期		後期	
	後期		後期	
	後期		後期	
単位数	1		1	
	1		1	
	1		1	
	1		1	
担当者	野田 悟		野田 悟	
	野田 悟		野田 悟	
	野田 悟		野田 悟	
	野田 悟		野田 悟	

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：

1. 楷書体以前の古代文字を学ぶ必要性を理解し、比較した法帖を自分の目で分析し、最後は自分で選んだ書風に創作表現する。

テーマ：

一回生（篆書）……秦代『嶧山刻石』、清代鄧石如『白氏草堂記』、清代吳熙載『崔子玉座右銘』。

二回生以上（隸書）……『禮器碑』（必須）、『曹全碑』、『張遷碑』、『石門頌』（三点の中から二点選ぶ）。

授業の概要

1. 前期の楷書の授業で学習した方法を応用し、更に時代を遡った書体を学ぶ。
2. それぞれの時代に合った用筆筆鋒の修練並びに精神的鍛錬を兼ねる。
3. 学生間の切磋琢磨による鑑賞眼及び技術の向上をはかる。

授業計画

- 1～4. 秦代『嶧山刻石』（二回生以上は『禮器碑』）の反復臨書。
- 5～7. 清代鄧石如『白氏草堂記』（二回生以上は『曹全碑』、『張遷碑』、『石門頌』の中から一点選択）の反復臨書。
- 8～10. 清代吳熙載『崔子座右銘』（二回生以上は『曹全碑』、『張遷碑』、『石門頌』の中から別のものを一点選択）の反復練習。
- *前半半紙臨書作品の提出。
11. 半紙を3枚準備し、半紙それぞれで『嶧山刻石』、『白氏草堂記』、『崔子座右銘』（二回生以上は『禮器碑』）必須と『曹全碑』、『張遷碑』、『石門頌』の中から二点選択）を書き比べる。
12. 半切の画仙紙（半紙をついでとも構わない）を準備し、3行各12文字書きに折り、今度は3つのそれぞれの篆書体（二回生以上は隸書体）をランダムに臨書する。その後互評会を行い、鑑賞者が法帖を見ずにそれぞれの文字がどの書風を書いているのかを言い当てる。（個々で創作者の書風の分析力と技術が分かり、且つ此批評者の鑑識眼の高低が分かる。）
- *ここで自分で法帖を1つに絞り臨書する。
- 13～15. まだ臨書研究が足りないものは再度臨書に戻り（よくなったら創作への指導をする）、臨書能力の高いものは指定した内容の創作に移る。最後は互評会と後半の作品提出。

テキスト

- ・二玄社法書選（二玄社）：56『鄧石如集』、58『吳熙載集』（一回生）3『石門頌』、5『禮器碑』、8『曹全碑』、9『張遷碑』（二回生以上）
- ・その他必要に応じて、プリントを配布する。

参考書・参考資料等

・字書：『字源』、伏見冲敏編『書道字典』（角川書店）、北川博邦編『清人篆隸字典』（雄山閣）等

学生に対する評価

- ・基本的に提出物（毎回の課題も含む）をそのまま評価する。
- ・後期の授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。
- ・遅刻・早退は欠席の3分の1として計算する。

その他

- ・受講は前期を履修したものに限る。
- ・創作用の半切画仙紙の使用については授業中に指示をする。
- ・書道実技の講座として、毎回の課題が課される。
- ・授業以外での個々の練習量は、評価に大きく左右されることを心得て望むこと。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
かな I-1/かな I-2	到達目標：【前期】「かな」成立の歴史を知り、実習を通して行書きのかな創作ができることを目標とする。 【後期】前期で身につけた技術をより高め「ちらし書き」の創作、及び古筆の臨書技術を身につけることを目標とする。 テーマ：【前期】細筆の使い方を身につけ、かなの美を知る。 【後期】「ちらし書き」による白と黒の美の世界を表現する。古筆にそれを見る。
学期	授業の概要
通年	【前期】日本独自の文字「かな」の成立の歴史を知り、その字母を覚える。かなの技術を身につける。 【後期】かな独自の構成法を知り、それを身につけ、その美が「余白」「流麗」「簡素」であることを知るために粘り強く実習する。
単位数	授業計画
1 2 1	【前期】 1. 講義目標・概要の解説 ・書歴のアンケート 2. かな成立の歴史を解説 ・かなの基本線の練習 3. 「いろは歌」による単体練習・6～10. 字母説明 4. 連綿の解説・実習 5. 変体がな解説・実習 6. 和歌一首（行書きの実習） 7～11. 手本No 1～No 4 実習・添削指導 12～15. 行書き創作の解説・実習・添削指導 【後期】 1. 「ちらし書き」の解説・実習 2～5. 「ちらし書き」の様々な形を手本をもとに練習 6～10. 「ちらし書き」作品の創作 11～15. 古筆・高野切の解説 高野切第1種・第3種の原寸大臨書
担当者	テキスト プリント 参考書・参考資料等 古筆全般・かな字典 後期は古筆（三色紙・高野切第2種）
山本圭子	学生に対する評価 出席重視 適宜小テストを行なう。 1/3以上欠席者は評価しません。 その他 ・実習科目は出席が大事です。出席して、数多く書かなければ上達しません。地道な努力と粘り強い意志をもって参加してください。 ・後期を履修できるのは、前期を履修した者に限ります。 ・後期は前期よりかなり難しくなりますが、挑戦する気持ちを強くもって出席してください。書道は一朝一夕に上達するものではないので「継続は力なり」を信じて粘り強く実習に取り組んでください。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標： テーマ：
学期	授業の概要
単位数	授業計画
担当者	テキスト 参考書・参考資料等 学生に対する評価 その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
釈尊伝 の生涯 (別)	到達目標：釈尊の思想とその生涯についての基礎知識の養成 テーマ：釈尊の思想とその生涯を概観することによって、初期仏教の思想と歴史についての知識を深める。
学期	授業の概要
後期	仏教の開祖であるゴータマブツダ（釈尊）の生涯を基本的仏伝資料によって概観し、その後は釈尊のことが集成された最古層に属する経典とされる『スッタニパータ』から、幾つかの偈頌を抽出することによって、釈尊のことがばの世界を通してその実像に迫って行く。
単位数	授業計画
2	1. オリエンテーション 2. 仏伝資料による釈尊の生涯概観。 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 『スッタニパータ』「蛇の章・慈しみ」を読み、同じ作業を行う。 8. 『スッタニパータ』「小なる章・宝」を読み、同じ作業を行う。 9. 『スッタニパータ』「小なる章・ダンミカ」を読み、同じ作業を行う。 10. 『スッタニパータ』「大なる章・つとめはげむこと」を読み、同じ作業を行う。 11. 『スッタニパータ』「大なる章・矢」を読み、同じ作業を行う。 12. 『スッタニパータ』「大なる章・二種の観察」を読み、同じ作業を行う。 13. いくつかの仏伝記事を紹介・解説することによって、釈尊神格化のプロセスについて解説する。 14. 同上 15. 学習した内容に対する質問や意見を聞き、総まとめをする。
担当者	テキスト 毎時間必要なコピーを配布する。
前谷彰	参考書・参考資料等 必要に応じて紹介する。 学生に対する評価 出席率（1回欠席で3点減点）と学期末試験とで総合的に評価する。 その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
弘法大師空海の生涯（別）	到達目標：真言宗の開祖・空海の62年にわたる生涯のアウトラインを理解する。 テーマ：空海の生涯とその時代
学期	授業の概要
後期	9世紀のはじめ唐にわたり、最新の仏教＝密教を持ちかえって体系化し、真言宗の開祖となった空海。その62年にわたる生涯には、まだ解明されていない点が多くあります。一方、解決済みとみなされてきた事跡にも疑わしい点があります。そこで、講義では空海が活躍した時代がどのような時代であったかを概観しつつ、従来の説を徹底的に検証し、先入観を排した新しい空海像をご一緒に考えていきましょう。
単位数	授業計画
2	1. はじめに－空海伝研究の現状と課題－ 2. 基本的な参考文献 3. 誕生地と誕生年次 4. 空海の家系－佐伯直氏と阿刀氏－ 5. 若き日の修行 6. 出家と入唐 7. 恵果和尚からの受法 8. 最澄との交友 9. 最澄との決別 10. 高野山の開創 11. 都における活躍 12. 綜芸種智院の開設 13. 最晩年の空海 14. 空海の最期 15. 大師号の下賜と入定信仰
担当者	テキスト 毎時間、プリントを配布する。 参考書・参考資料等 高木神元『空海－その生涯と周辺－』吉川弘文館 竹内信夫『空海－弘仁のモダニスト－』ちくま新書 武内孝善共著『あなただけの弘法大師空海』小学館 武内孝善・川辺秀美著『空海と密教美術』洋泉社 武内孝善『弘法大師 伝承と史実－絵伝を読み解く－』朱鷺書房
武内孝善	学生に対する評価 授業への参加度（出席した上で積極的に質問等する）50%。学期末のレポート50%。 その他 ①空海伝にはまだ定説はありません。新しい空海発見の旅に、あなたも参加してください。 ②積極的に講義に参加してほしい。疑問をもったらその場で解決しよう。質問を待っています。 ③空海の伝記を最低3冊は読もう。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
梵字悉曇	到達目標： 【前期】梵字悉曇の基礎知識の修得 【後期】梵字悉曇（応用編）・真言、陀羅尼の書法実践 テーマ： 【前期】梵字悉曇の基礎知識 【後期】梵字悉曇の応用
梵字悉曇A(別)	授業の概要 【前期】摩多・体文・切継など、書法を実践しながら基礎知識を修得する。 【後期】前期で修得した文字を基本に、常用經典にある真言・陀羅尼を学び、その書法を実践する。
梵字悉曇B(別)	授業計画 【前期】 1. 年間授業計画の説明 2. 梵字悉曇の歴史と筆記用具 (1) 3. 梵字悉曇の歴史と筆記用具 (2) 4. 5. 6. 7. 8. 文字の修得 9. 字母五十一字 (摩多・体文) 10. 悉曇十八章 (切継について) 11. 12. 13. 14. 15. 【後期】 1. 常用經典所載の真言・陀羅尼 2. 塔婆の書様 3. 葬儀に用いる梵字 4. 文字の修得 5. 以上の書法を実践する。 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15.
学期	テキスト 児玉義隆著『梵字必携』朱鷺書房 中川善教 編『真言宗常用諸経要聚』
前期	参考書・参考資料等 静慈圓著『梵字悉曇』朱鷺書房
後期	学生に対する評価 出席 80% 作品提出 20%
単位数	その他 筆と半紙を準備 (授業の最初に説明します)。
2	
2	
2	
担当者	
齋藤天譽	

科目名	授業の到達目標及びテーマ
漢文I	到達目標：返り点を正しく使う能力を養い、漢文訓読の基礎を身に付けることを到達目標とする。 テーマ：漢文訓読の基礎 (入門)
	授業の概要 旧漢字を正しく書く練習、漢文を返り点のとおりに書き下し文にする練習、書き下し文のとおりに返り点を打つ練習を繰り返す行う。予習が必ず必要である。 受講生は、板書によって予習の成果を発表しなければならない。
	授業計画 1. 返り点にしたがって読む練習 (1) 2. 返り点にしたがって読む練習 (2) 3. 返り点にしたがって読む練習 (3) 4. 返り点を付ける練習 (1) 5. 返り点を付ける練習 (2) 6. 返り点を付ける練習 (3) 7. 旧漢字の練習 (1) 8. 旧漢字の練習 (2) 9. 旧漢字の練習 (3) 10. 用言の活用練習 (1) 11. 用言の活用練習 (2) 12. 用言の活用練習 (3) 13. 短文を読む練習 (1) 14. 短文を読む練習 (2) 15. 短文を読む練習 (3)
学期	テキスト プリントを配布する。
前期	参考書・参考資料等 特になし。
後期	学生に対する評価 授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする (『学生手帳』参照)。 遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。出席は点数化しない。 期末テストで100%評価する。
単位数	その他
2	
担当者	
南昌宏	

科目名	授業の到達目標及びテーマ
漢文II	到達目標：訓点を使って漢文を訓読する能力を養い、漢文法の基礎を身に付けることを到達目標とする。 テーマ：漢文訓読の基礎 (初級)
	授業の概要 市販の漢文テキストを使用する。1回に数ページをこなすことで、1冊すべてをやり遂げる。 予習が必ず必要である。 受講生は、板書によって予習の成果を発表しなければならない。
	授業計画 1. 送りなが・返り点の練習をする。 2. 返り点・助字の練習をする。 3. 漢文の構造の練習をする。 4. 書き下し文・返読文字の練習をする。 5. 再読文字の練習をする。 6. 再読文字の練習をする。 7. 簡単な否定と禁止の練習をする。 8. 部分否定と特殊な否定の練習をする。 9. 二重否定の練習をする。 10. 使役・受身の練習をする。 11. 疑問の練習をする。 12. 反語の練習をする。 13. 比較・選択・仮定の練習をする。 14. 漢詩の基礎 15. 応用問題
学期	テキスト 林欣生編『書き込み式20日間完成 漢文 [高校初級用]』(日栄社)生協で購入。
後期	参考書・参考資料等 特になし。
単位数	学生に対する評価 授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする (『学生手帳』参照)。 遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。出席は点数化しない。 期末テストで100%評価する。
2	その他
担当者	
南昌宏	

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標： テーマ：
	授業の概要
	授業計画
学期	テキスト
後期	参考書・参考資料等
単位数	学生に対する評価
2	その他
担当者	

科目名	授業の到達目標及びテーマ
真言宗の教義Ⅰ (別)	到達目標：密教に関する基本的な理解を培うことを目的とする。 テーマ：密教の基礎知識の養成
学期	授業の概要 インドにおいて発生した密教は、善無畏三蔵や金剛智三蔵によって、唐代の中国に伝えられるが、思想として体系化されるまでにいたらない。弘法大師空海によって確立されることになる（真言）密教の特徴を概観する。
前期	授業計画 1. 講義内容の説明 2. 密教・真言宗の意味 3. 密教の分類 4. 密教の源流 5. 仏教のなかでの密教の発展過程 6. 密教経典の分類 7. 密教経典の特色 8. 密教経典の訳出 9. 中国密教の成立 10. 奈良時代の密教 11. 密教思想の組織化 12. 真言密教の教判 13. 顕密二教の教判① 14. 顕密二教の教判② 15. 講義の総括
単位数	テキスト 勝又俊教著『密教入門』春秋社
2	参考書・参考資料等 松長有慶著『密教』（岩波新書）岩波書店 高神覚昇著『密教概論』大法輪閣 金岡秀友著『密教の哲学』講談社学術文庫
担当者	学生に対する評価 平常点 20%、試験 80%
乾	その他
仁志	

科目名	授業の到達目標及びテーマ
真言宗の教義Ⅱ (別)	到達目標：密教に関する基本的な理解を培うことを目的とする。 テーマ：密教の基礎知識の養成
学期	授業の概要 インドにおいて発生した密教は、善無畏三蔵や金剛智三蔵によって、唐代の中国に伝えられるが、思想として体系化されるまでにいたらない。弘法大師空海によって確立されることになる（真言）密教の特徴を概観する。
後期	授業計画 1. 講義内容の説明 2. 十住心の思想の構成 3. 十住心思想の特徴 4. 真言密教の仏陀観① 5. 真言密教の仏陀観② 6. 曼荼羅の成立と意味 7. 四種曼荼羅 8. 真言密教の人間観 9. 心性本浄思想の源流 10. 菩提心を保つ 11. 淨菩提心を観ずる観法 12. 四重禁戒 13. 即身成仏思想 14. 密教の特性 15. 講義の総括
単位数	テキスト 勝又俊教著『密教入門』春秋社
2	参考書・参考資料等 松長有慶著『密教』（岩波新書）岩波書店 高神覚昇著『密教概論』大法輪閣 金岡秀友著『密教の哲学』講談社学術文庫
担当者	学生に対する評価 平常点 20%、試験 80%
乾	その他
仁志	

科目名	授業の到達目標及びテーマ
密教史概説Ⅰ	到達目標：インド・チベットの密教の歴史に関する基礎的な知識を身につける。 テーマ：インド・チベット密教史
学期	授業の概要 インド密教がどのように形成され、発展したか。そしてそれがどのような過程を経てチベットに伝えられ、チベット密教として展開したか。チベット密教の特色は何か。これらの点について映像などをまじえながら立体的に講義する。
前期	授業計画 1. イントロダクション 2. インド・チベット仏教における密教経典分類法 3. インド初期密教 萌芽から形成へ 4. インド中期密教 組織化の時代1 5. インド中期密教 組織化の時代2 6. インド後期密教 新たな展開1 7. インド後期密教 新たな展開2 8. 古代チベット王国と仏教の伝来 9. 仏教国教化への道のり 10. 古代チベット王国の崩壊と仏教の復興 11. 諸宗派の形成1 12. 諸宗派の形成2 13. プトウンとツォンカバ 14. ゲルク派の覇権 15. ダライ・ラマ法王とは何か
単位数	テキスト 特になし。
2	参考書・参考資料等 教室でそのつど紹介する。
担当者	学生に対する評価 平常点 30%（遅刻3回で1欠席とみなす）、授業参加状況 30%、期末試験 40%
奥山直司	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
密教史概説Ⅱ	到達目標：日本密教の歴史を知る テーマ：日本密教（真言密教、天台密教）の歴史を知る
学期	授業の概要 真言宗の歴史をテキストにもとづきながら概説する。
後期	授業計画 1. オリエンテーション 2. 密教の受容基盤 3. 密教の受容基盤 4. 真言宗の成立 5. 真言宗の成立 6. 真言宗の分化 7. 天台の密教 8. 天台の密教 9. 覚鑒の改革 10. 鎌倉時代の密教 11. 鎌倉時代の密教 12. 室町時代の密教 13. 室町時代の密教 14. 江戸期の密教 15. まとめ
単位数	テキスト 松長有慶『密教の歴史』（平楽寺書店）
2	参考書・参考資料等
担当者	学生に対する評価 期末レポート 70 パーセント、平常点 30 パーセント
佐藤隆彦	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
仏教学概論Ⅰ	到達目標：仏教用語の基礎知識を身につけ、仏教の伝播と受容についての歴史的展開を理解すること。 テーマ：仏教文献（『三蔵』）の原典資料を用いた仏教思想の概説
学期	授業の概要
前期	参考とする教科書の記述に沿って、インドにおける仏教の興起と展開、そして、アジア諸国への伝播、特に漢字文化圏における中国的な仏教受容と日本的な展開を概説する。 前期セメスターでは、「三蔵」を始めとして、仏教用語の基礎知識を身につけることを目的として、授業を展開する。
単位数	授業計画
2	1. (導入)「仏教学」(Buddhist Studies)という学問分野について 2. (導入) 古典インド学領域の知識・言語習得の必要性について 3. パラモン文化と沙門の思想 4. 釈尊仏陀とその教え：「四諦」・「五蘊」・「縁起」・「有為」 5. 初期の仏教：「声聞」たちの思索 6. 部派の仏教：経から論へ 7. 「アビダルマ」の教義 8. 大乘運動と『般若経』 9. 「空」の思想 10. 「唯心」の思想 11. 「唯識」の思想 12. 「金剛乗」の思想 13. インド諸思想の仏教思想との対峙 14. まとめ 15. 前期試験
担当者	テキスト
室寺義仁	高崎直道『仏教入門』東京大学出版会
	参考書・参考資料等
	平川 彰『インド 中国 日本 仏教通史』春秋社 奈良・下田編集『新アジア仏教史 03 インドⅢ 仏典からみた仏教世界』佼成出版社
	学生に対する評価
	平常点 (40%) と学期末試験 (60%) で評価する。
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
仏教学概論Ⅱ	到達目標：仏教用語の基礎知識を身につけ、仏教の伝播と受容についての歴史的展開を理解すること。 テーマ：仏教文献（『三蔵』）の原典資料を用いた仏教思想の概説
学期	授業の概要
後期	参考とする教科書の記述に沿って、インドにおける仏教の興起と展開、そして、アジア諸国への伝播、特に漢字文化圏における中国的な仏教受容と日本的な展開を概説する。 後期セメスターでは、漢字文化圏における仏教の受容と展開についての基礎知識を身につけることを目的として、授業を展開する。
単位数	授業計画
2	1. (導入) 教えの伝道について：仏教の伝播と受容の有り様 2. チベットへの伝播 3. 中国への伝播 4. 羅什三蔵の翻訳と「三論宗」 5. 真諦三蔵の翻訳と「摂論宗」 6. 南朝梁から北魏、隋代の「格義」仏教：「法身」思想の展開 7. 玄奘三蔵の翻訳と「俱舍宗」・「法相宗」 8. 唐代から宋代における教義展開 9. 聖徳太子の伝える仏教の教え 10. 南都の仏教 11. 平安京の仏教 12. 空海の伝える「密蔵」の教え「密教」 13. 浄土の教え・禅の教え 14. まとめ 15. 学年末試験
担当者	テキスト
室寺義仁	高崎直道『仏教入門』東京大学出版会
	参考書・参考資料等
	平川 彰『インド 中国 日本 仏教通史』春秋社 奈良・下田編集『新アジア仏教史 03 インドⅢ 仏典からみた仏教世界』佼成出版社
	学生に対する評価
	平常点 (40%) と学期末試験 (60%) で評価する。
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
仏教史概説Ⅰ	到達目標：仏教がインドのどのような思想を背景に誕生し、どのような歴史的変容を被ったかを理解する。 テーマ：インドにおける仏教誕生とその後の変容形態について
学期	授業の概要
前期	仏教が興起する以前に存在したインドの思想体系の概説を行った上で、仏教がインドにおいてどのような歴史的変容を被りながら展開していったかについて考察して行く。
単位数	授業計画
2	1. 導入として、仏教が興起する以前のインド史をインダス文明の崩壊期から概説。 2. ヴェーダの宗教と思想的特徴について解説。 3. 幾つかの古ウパニシャッド文献によって、ウパニシャッドの思想的特徴について理解を深める。 4. 反ヴェーダ的思想家たち（六師外道）の思想を紹介。 5. 第4回までの内容について、その習熟度を知るための小テストを行う。 6. 小テストを返却し、回答の解説と全体的な復習を行う。 7. 釈尊の誕生から成道までの歴史について解説する。 8. 釈尊の成道から入滅までの歴史について解説する。 9. 釈尊がいったい何にめざめ、どのような説法を行ったかについて解説する。 10. 仏教思想の要である「縁起」について、詳しく説明する。 11. 「縁起」を中心にして、初期仏教思想の要について解説する。 12. 大乘諸派がいかなる歴史的背景のもとに誕生していったかについて解説する。 13. 大乘と初期仏教の思想的相違点について考察する。 14. 大乘アビダルマの思想的特徴について解説する。 15. 総まとめと意見交換。
担当者	テキスト
前谷 彰	担当者作成の『仏教概要』をコピーして配布する。
	参考書・参考資料等
	必要に応じて、授業時に紹介する。
	学生に対する評価
	出席率（1回の欠席で3点減点）と1回の小テストと期末試験で評価する。
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
仏教史概説Ⅱ	到達目標：仏教が中国を経て日本に伝わり、その後どのような歴史的変容を被ったかについて理解する。 テーマ：中国・日本における仏教の展開について
学期	授業の概要
後期	中国において仏教がどのような思想的特徴を持ち、日本に伝来された後にどのような歴史的変容を被りながら展開していったかについて考察して行く。
単位数	授業計画
2	1. 中国仏教の特徴について、教相判釈を中心に解説する。 2. 同上 3. 日本への仏教伝来と、その様相について解説する。 4. 聖徳太子の仏教観とその政治的役割について解説する。 5. 第4回までの内容について、その習熟度を知るための小テストを行う。 6. 小テストを返却し、回答の解説と全体的な復習を行う。 7. 平安仏教の幕開けについて、最澄の業績を中心に解説する。 8. 同上 9. 平安仏教の特徴を、弘法大師（空海）の業績を中心に解説する。 10. 同上 11. 鎌倉仏教の特徴を、源信・法然・親鸞を中心に解説する。 12. 鎌倉仏教の特徴を、源信・法然・親鸞を中心に解説する。 13. 同上 14. 鎌倉仏教の特徴を、道元・栄西・日蓮を中心に解説する。 15. 総まとめと意見交換を行う。
担当者	テキスト
前谷 彰	担当者作成の『仏教概要』をコピーして配布する。
	参考書・参考資料等
	必要に応じて、授業時に紹介する。
	学生に対する評価
	平常点 (20%)、2回の小テスト (20%)、期末試験 (60%) で評価する。
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：日本の文学のなかで、古代から中世までの文学の歴史を学ぶとともに、その時代の日本文学の特徴を理解する。 テーマ：日本文学史概観
日本文学史概説Ⅰ	
学期	授業の概要 奈良時代から室町時代までの日本文学の歴史を概観する。
前期	授業計画 1. ガイダンス 日本文学における時代区分について 2. 『古事記』『万葉集』 3. 漢詩文の隆盛 4. 勅撰和歌集と私家集 5. 物語文学の発生 6. 随筆と日記文学 7. 歴史物語と説話物語（今昔物語集） 8. 『新古今集』とその時代 9. 連歌と歌謡 10. 軍記物語 平家物語を中心に 11. 世俗説話集と仏教説話集 12. 紀行文学 13. 史論と法語 14. 謡曲と狂言 15. まとめ
単位数	テキスト 教員が用意する。
2	参考書・参考資料等 講義の中で指摘する。
担当者	学生に対する評価 平常点 50%、レポート (50%)
下西忠	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：日本の文学のなかで、近世から現代までの文学の歴史を学ぶとともに、その時代の日本文学の特徴を理解する。 テーマ：日本文学史概観
日本文学史概説Ⅱ	
学期	授業の概要 江戸時代から現代までの日本文学の歴史を概観する。
後期	授業計画 1. 俳諧と芭蕉 2. 和歌 3. 狂歌と川柳 4. 仮名草子、浮世草子、読本など 5. 洒落本、滑稽本、人情本 6. 随筆 7. 浄瑠璃の世界 8. 明治初期の文学 9. 明治二十年代の文学（あたらしい時代の文学の旅立ち） 10. 明治三十年代の文学（近代文学の展開） 11. 明治四十年代の文学（近代文学の成熟） 12. 大正時代の文学 13. 昭和時代（～二十年まで） 14. 戦後の文学 15. まとめ
単位数	テキスト 教員が用意する。
2	参考書・参考資料等 講義の中で指摘する。
担当者	学生に対する評価 平常点 50%、レポート (50%)
下西忠	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：漢文で書かれた散文作品を読み、国語教師としての能力を身に付けることを目標とする。 テーマ：漢文による散文作品の読解・鑑賞
漢文学概説Ⅰ	
学期	授業の概要 志怪・伝奇小説の流れを汲む『聊斎志異』を読む。 和訳に基づいて漢文を訓読する訓練をする。 受講生には発表を求め、毎回予習が必要である。
前期	授業計画 1. 「九山王」を講読する。(1) 2. 「九山王」を講読する。(2) 3. 「九山王」を講読する。(3) 4. 「九山王」を講読する。(4) 5. 「九山王」を講読する。(5) 6. 「九山王」を講読する。(6) 7. 「九山王」を講読する。(7) 8. 「九山王」を講読する。(8) 9. 「遊化署狐」を講読する。(1) 10. 「遊化署狐」を講読する。(2) 11. 「遊化署狐」を講読する。(3) 12. 「遊化署狐」を講読する。(4) 13. 「遊化署狐」を講読する。(5) 14. 「遊化署狐」を講読する。(6) 15. 「遊化署狐」を講読する。(7)
単位数	テキスト 授業中に資料を配付する。
2	参考書・参考資料等 携帯用の漢和辞典として『新字源』（角川書店）、あるいは『漢語林』（大修館書店）を使用するのが望ましい。
担当者	学生に対する評価 授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする（『学生手帳』参照）。 遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。 予習成果の発表 30%、期末試験 70% で評価する。
南昌宏	その他 受講者の人数が少ない場合は、受講生と相談してテキストを変更する場合がある。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：漢詩を読み、国語教師としての能力を身に付けることを目標とする。 テーマ：漢詩作品の読解・鑑賞
漢文学概説Ⅱ	
学期	授業の概要 『唐詩選』の注釈を読むことにより、訓読・読解の訓練をする。 受講生には発表を求め、毎回予習が必要である。
後期	授業計画 1. 漢詩の基本解説 2. 「行経華陰」を講読する。(1) 3. 「行経華陰」を講読する。(2) 4. 「行経華陰」を講読する。(3) 5. 「行経華陰」を講読する。(4) 6. 「登金陵鳳皇台」を講読する。(1) 7. 「登金陵鳳皇台」を講読する。(2) 8. 「登金陵鳳皇台」を講読する。(3) 9. 「登金陵鳳皇台」を講読する。(4) 10. 「登金陵鳳皇台」を講読する。(5) 11. 「早朝大明宮呈兩省僚友」を講読する。(1) 12. 「早朝大明宮呈兩省僚友」を講読する。(2) 13. 「早朝大明宮呈兩省僚友」を講読する。(3) 14. 「早朝大明宮呈兩省僚友」を講読する。(4) 15. 「早朝大明宮呈兩省僚友」を講読する。(5)
単位数	テキスト 授業中に資料を配付する。
2	参考書・参考資料等 携帯用の漢和辞典として『新字源』（角川書店）、あるいは『漢語林』（大修館書店）を使用するのが望ましい。
担当者	学生に対する評価 授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする（『学生手帳』参照）。 遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。 予習成果の発表 30%、期末試験 70% で評価する。
南昌宏	その他 受講者の人数が少ない場合は、受講生と相談してテキストを変更する場合がある。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
真言密教の特殊講義A 密教儀礼の理論と実習(別)	到達目標：引導作法と葬儀に関する知識の習得 テーマ：葬送儀礼の実践習得
学期	授業の概要 葬送儀礼に関する様々な知識を習得し、高野山の寺家の葬儀等も学ぶ。
前期	授業計画 1. 葬送儀礼の歴史 2. 真言宗の葬儀 3. 4. 5. 6. 『引導署作法(二巻疏)』の解説 7. 導師と職衆の心得 8. 高野山の寺家の葬儀 9. 戒名について 10. 葬儀に用いる梵字と書き様(塔婆等) 11. 葬儀に関する質疑応答 12. 13. 14. 15.
単位数	テキスト 宮野有智 編輯『引導作法全集(上・下)』松本日進堂 大栗道榮 編集『引導作法』高野山出版社
2	参考書・参考資料等 授業の中で随時、紹介します。
担当者	学生に対する評価 授業態度重視
齋藤天譽	その他 【受講資格について】 原則として伝法灌頂修了者であるが、加行前期修了者も受講可とします。 但し、已灌頂者と未灌頂者は、きっちり区別して講義します。(詳細は開講時に説明します)

科目名	授業の到達目標及びテーマ
真言密教の特殊講義B 密教儀礼の理論と実習(別)	到達目標：引導作法と葬儀に関する知識の習得 テーマ：葬送儀礼の実践習得
学期	授業の概要 『引導署作法(二巻疏)』を基に、引導作法の伝授と葬儀に関する知識の習得を目的とする。
後期	授業計画 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 『引導署作法(二巻疏)』の伝授と解説 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15.
単位数	テキスト 宮野有智 編輯『引導作法全集(上・下)』松本日進堂 大栗道榮 編集『引導作法』高野山出版社
2	参考書・参考資料等 授業の中で随時、紹介します。
担当者	学生に対する評価 授業態度重視
齋藤天譽	その他 【受講資格について】 原則として伝法灌頂修了者であるが、加行前期修了者も受講可とします。 但し、已灌頂者と未灌頂者は、区別して講義します。(詳細は開講時に)

科目名	授業の到達目標及びテーマ
密教の特殊講義C 密教儀礼の理論と実習C	到達目標：『釈摩訶衍論』に関する理解を深めることを目的とする。 テーマ：『釈摩訶衍論』の研究
学期	授業の概要 『大乘起信論』は大乘の仏教思想を体系づけた論とされ、大乘仏教を学ぶ仏教者にとって入門書的な役割をしている。『釈摩訶衍論』は『大乘起信論』の注釈書のひとつであるが、弘法大師はこの論に展開する教説に注目し、真言密教の教学を構築することになる。
前期	授業計画 1. オリエンテーション 2. 『大乘起信論』 梗概 3. 『大乘起信論』 梗概 4. 『釈摩訶衍論』 梗概 5. 『釈摩訶衍論』 6. 『釈摩訶衍論』 7. 『釈摩訶衍論』 8. 『釈摩訶衍論』 9. 『釈摩訶衍論』 10. 『釈摩訶衍論』 11. 『釈摩訶衍論』 12. 『釈摩訶衍論』 13. 『釈摩訶衍論』 14. 『釈摩訶衍論』 15. 総括
単位数	テキスト 『大乘起信論』大正大蔵経第32巻 『釈摩訶衍論』大正大蔵経第32巻
2	参考書・参考資料等 宇井伯寿著・高崎直道訳註『大乘起信論』岩波文庫 平川彰著『大乘起信論』大蔵出版 那須政隆著『釈摩訶衍論』成田山仏教研究所 森田龍徳著『釈摩訶衍論』藤井佐兵衛
担当者	学生に対する評価 平常点40%・レポート60%とし、総合的に評価する。
中村本然	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標： テーマ：
学期	授業の概要
単位数	授業計画
2	テキスト
担当者	参考書・参考資料等
	学生に対する評価
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
密教・チベット文化特殊講義D	到達目標： ①インド・チベットの仏教図像に関する基礎的な知識と研究方法を身につける。 ②チベットの仏像（彫刻・絵画等）を見たときに、その名称がすぐに言えるようになる。 ③インド・チベット仏教史の流れを理解する。 テーマ：インド・チベット密教の図像資料の研究
	授業の概要 チベット探検で知られる河口慧海がチベット・ネパールから持ち帰った図像資料などに基づいて、インド・チベット仏教美術の主題と表現形式を学び、さらに『三百尊図像集』などを用いて、図像の解説と解説の練習を行う。あわせて、インド・チベット仏教史の流れについて説明し、基礎的な知識の整理を行う。
	授業計画 1. イントロダクション：チベットのタンカをどう見るか 2. インド・チベット仏教美術の主題と表現形式1 3. インド・チベット仏教美術の主題と表現形式2 4. インド・チベット仏教美術の主題と表現形式3 5. インド・チベット仏教美術の主題と表現形式4 6. 河口慧海コレクション1 7. 河口慧海コレクション2 8. 河口慧海コレクション3 9. 『三百尊図像集』1 10. 『三百尊図像集』2 11. 『三百尊図像集』3 12. 『三百尊図像集』4 13. 『三百尊図像集』5 14. 『三百尊図像集』6 15. まとめ
	テキスト 『河口慧海請来チベット資料図録』 校成出版社
	参考書・参考資料等 頼富本宏・下泉全曉『密教仏像図典 インドと日本の仏たち』 人文書院
学期	後期
単位数	2
担当者	奥山直司
学生に対する評価 平常点 20%（遅刻3回で1欠席と見なす）、小レポートを含む授業参加状況 40%、期末レポート 40%	
その他	

科目名	授業の到達目標及びテーマ
仏教美術特殊講義A	到達目標：仏像の種類や像容の特徴を学び、その功德や信仰の歴史についての知識を培うことを到達目標とする。 テーマ：仏像の造形—その姿と意味
	授業の概要 仏像は如来・菩薩・明王・天などに分類され、その姿は多種多様である。講義では各尊の姿や手印・持物の意味を考察し、その信仰の歴史などについて概観する。
	授業計画 1. 釈迦如来 2. 薬師如来 3. 阿弥如来 4. 毘盧遮那仏と大日如来 5. 弥勒仏と弥勒菩薩 6. 観音菩薩 7. 変化観音—十一面観音・千手観音 8. 変化観音—不空羂索観音・馬頭観音など 9. 文殊・普賢菩薩 10. 地藏・虚空蔵菩薩 11. 不動明王 12. 愛染明王 13. 天部の守護神—四天王 14. 天部の守護神—吉祥天など 15. 天部の守護神—閻魔など
	テキスト 参考資料を配布する。
	参考書・参考資料等 講義中に指示する。
学期	前期
単位数	2
担当者	緒方啓介
学生に対する評価 授業態度を重視する。 後期講義終了までに各自テーマを提出し、原稿用紙10枚程度のレポートを提出する。	
その他 仏教美術特殊講義B（後期）を履修・聴講することが望ましい。	

科目名	授業の到達目標及びテーマ
仏教美術特殊講義B	到達目標：技法・構造を学ぶことで、仏像に親しみ正しく理解することを到達目標とする。 テーマ：仏像の造形—構造と様式
	授業の概要 講義では、各時代の仏像の様式・材質・技法などの各論について概説する。
	授業計画 1. 様式論—飛鳥時代 2. 様式論—白鳳時代 3. 様式論—天平時代 4. 様式論—平安時代前期 5. 様式論—平安時代後期 6. 様式論—鎌倉時代（運慶様式） 7. 様式論—鎌倉時代（快慶様式） 8. 様式論—鎌倉時代（宋元風） 9. 構造・技法論—金属 10. 構造・技法論—塑像 11. 構造・技法論—脱乾漆造 12. 構造・技法論—木心乾漆造 13. 構造・技法論—木造 14. 構造・技法論—寄木造 15. 仏像の衣装
	テキスト 参考資料を配布する。
	参考書・参考資料等 講義中に指示する。
学期	後期
単位数	2
担当者	緒方啓介
学生に対する評価 授業態度を重視する。 後期講義終了までに各自テーマを提出し、原稿用紙10枚程度のレポートを提出する。	
その他 仏教美術特殊講義A（前期）を履修・聴講することが望ましい。	

科目名	授業の到達目標及びテーマ
日本文文化特殊講義	到達目標：文学の鑑賞力をやしなう。 テーマ：近代文学の名作を読む。
	授業の概要 明治から昭和にかけての小説・詩・名歌・名句を鑑賞する。作品の鑑賞の方法、名作といわれるゆえんなど講義を通して文学の魅力にせまる。
	授業計画 1. ガイダンスと文学入門（文学の魅力） 2. 太宰治『カチカチ山』を読む（1） 3. 北杜夫『岩尾根にて』 4. 魯迅『故郷』 5. 志賀直哉『赤西蠣太』 6. 三浦哲郎『とんかつ』 7. 中原中也の詩「汚れつまつた悲しみに」 8. 正岡子規と短歌・俳句 9. 幸田文『濃紺』 10. 吉行淳之介『童謡』 11. 夏目漱石『夢十夜』 12. 北原白秋の短歌など 13. 村上春樹『鏡』 14. 自由研究（受講者の発表） 15. まとめ
	テキスト 教員が用意する。
	参考書・参考資料等 講義の中で指摘。基本的な文学史の本を常に読んでおくこと。
学期	後期
単位数	2
担当者	下西忠
学生に対する評価 平常点 50%、レポート（50%）	
その他 基	

科目名	授業の到達目標及びテーマ
中国語特殊講義 A	到達目標：中国における思想・哲学を研究するために必要な基礎的知識・語彙・方法を修得することを到達目標とする。 テーマ：漢文大系『論語』を読む。
学期	授業の概要
後期	テキストは著名な注釈の要点をまとめたものである。輪読形式による口頭発表で漢文の訓読をしてもらう。受講生は予習が必要である。また、分からない言葉はすべて調べて理解するよう努めなければならない。
単位数	授業計画
2	1. 學而時習之章を読む。 2. 其為人也孝弟章を読む。 3. 巧言令色章を読む。 4. 吾日三省吾身章を読む。 5. 道千乘之國章を読む。 6. 弟子入則孝章を読む。 7. 賢賢易色章を読む。 8. 君子不重章を読む。 9. 慎終追遠章を読む。 10. 夫子至於是邦也章を読む。 11. 父在觀其志章を読む。 12. 禮之用章を読む。 13. 信近於義章を読む。 14. 君子食無求飽章を読む。 15. 貧而無詔章を読む。
担当者	テキスト
南 昌 宏	使用しない。授業中に資料を配付する。
	参考書・参考資料等
	学生に対する評価
	授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする（『学生手帳』参照）。 遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。 予習成果の発表30%、期末試験70%で評価する。
	その他
	受講者の人数が少ない場合は、受講生と相談してテキストを変更する場合がある。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
中国語特殊講義 B	到達目標： 1. 『説文解字』を学ぶことにより古代文字の基礎知識を修得し、その内容の講読力を向上させる。 2. 東洋文化の根幹である漢字に興味を持ち、中国語の原文を読むことにより、その必要性を理解し、それぞれの文献研究における基礎知識をつけることを到達目標とする。 テーマ：許慎『説文解字』とその背景及びその講読と篆書体の基礎的知識の修得。
学期	授業の概要
前期	〔漢〕許慎『説文解字』は文字を系統的に分析し、字源の考察をした中国最古の文字学の専門書である。許慎『説文解字』とその背景、またその部首（本年度は第四巻、第五巻の予定）の基礎的知識の修得。
単位数	授業計画
2	1. オリエンテーション 2. 漢字の変遷と『説文解字』前世 3. 『説文解字』の背景 4. 『六書』について（その1） 5. 『六書』について（その2） 6. 『六書』について（その3） 7. 許慎について 8. 説文部首 第四巻（その1）を読む。 9. 説文部首 第四巻（その2）を読む。 10. 説文部首 第四巻（その3）を読む。 11. 説文部首 第五巻（その1）を読む。 12. 説文部首 第五巻（その2）を読む。 13. 説文部首 第五巻（その3）を読む。 14. 復習・まとめ 15. テスト
担当者	テキスト
野 田 悟	・〔漢〕許慎『説文解字』中華書局または江蘇古籍出版社（個々に東方書店にて購入） http://www.toho-shoten.co.jp/ ・その他必要に応じてプリントを配る。
	参考書・参考資料等
	・『字通』（平凡社） ・『漢字学』（東海大学出版会） ・『説文入門』（大修館書店） ・『王福庵説文部首目』（西泠印社） ・『説文部首書注』（中国書店）
	学生に対する評価
	・基本的に期末テスト（70%）+それぞれの発表及び提出物（30%）での評価をする。 ・授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。 ・遅刻・早退は3分の1の欠席として計算する。
	その他
	・毎回各々担当課題が課されることを心得ておくこと。 ・『新字源』（角川書店）、『新撰漢和辞典』（小学館）、『全訳漢辞海』（三省堂）、『漢字源』（学研）、『漢語林』（漢語新辞典）（大修館）のうち、どれか一冊を必ず持参すること。版は問わないが、できるだけ新しいものがよい。（電子辞典を持参してもかまわないが、必ず紙媒体の辞典も持参すること）。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
真言宗典講義 I (別)	到達目標：弘法大師空海の原典に親しみ、その根本思想を把握することを目標とする。 テーマ：『即身成仏義』を読む
学期	授業の概要
前期	密教とは何か。即身成仏とは何か。弘法大師空海の『即身成仏義』はこの問いを追求する古典的名著である。即身成仏は、弘法大師の核心的な教えであり、この教えについて原典から直接学ぶことは、真言宗とは何かを知るために必要不可欠なことである。授業では、この思想の背景にある仏教思想を確認しつつ、原典（漢文）の流麗な文章表現を音読しながら味わい、ゆっくりと読み進めてゆく。
単位数	授業計画
2	1. 概論 2. 「二経一論八箇の証文」 3. 「即身成仏の偈頌」 4. 「二頌八句の総釈と科分」 5. 「六大無礙にして常に瑜伽なり」(1) 6. 「六大無礙にして常に瑜伽なり」(2) 7. 「六大無礙にして常に瑜伽なり」(3) 8. 「六大無礙にして常に瑜伽なり」(4) 9. 「四曼荼羅各離れず」(1) 10. 「四曼荼羅各離れず」(2) 11. 「四曼荼羅各離れず」(3) 12. 「四曼荼羅各離れず」(4) 13. 「四曼荼羅各離れず」(5) 14. 「四曼荼羅各離れず」(6) 15. テスト
担当者	テキスト
加 納 和 雄	高野山大学編、『十巻章』、高野山大学出版部。
	参考書・参考資料等
	その他、授業において指示します。
	学生に対する評価
	授業中の発表など30%、平常点30%、テスト40%
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
真言宗典講義 II (別)	到達目標：弘法大師空海の原典に親しみ、その根本思想を把握することを目標とする。 テーマ：『即身成仏義』を読む
学期	授業の概要
後期	『即身成仏義』についての概論と前期の復習をはじめに行い、前期で扱った範囲をカバーして、テキストの続きをさらに読みすすめる。『即身成仏義』を読了した後は、弘法大師空海の即身成仏思想の体系を再確認し、要点の把握に努める。
単位数	授業計画
2	1. 概論と前期の復習。 2. 〃 3. 「重重帝網なるを即身と名づく」(1) 4. 「重重帝網なるを即身と名づく」(2) 5. 「法然に薩般若を具足す」(1) 6. 「法然に薩般若を具足す」(2) 7. 「法然に薩般若を具足す」(3) 8. 「心数心王刹塵に過ぎたり、各五智無際智を具す」(1) 9. 「心数心王刹塵に過ぎたり、各五智無際智を具す」(2) 10. 「心数心王刹塵に過ぎたり、各五智無際智を具す」(3) 11. 「円鏡力の故に、実覚智なり」(1) 12. 「円鏡力の故に、実覚智なり」(2) 13. 弘法大師空海の即身成仏思想の体系 (1) 14. 弘法大師空海の即身成仏思想の体系 (2) 15. テスト
担当者	テキスト
加 納 和 雄	高野山大学編、『十巻章』、高野山大学出版部。
	参考書・参考資料等
	授業において指示します。
	学生に対する評価
	授業中の発表など30%、平常点30%、テスト40%
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：弘法大師空海の著作に親しみ、その思想の特質を理解する テーマ：『般若心経秘鍵』を読む
祖典講読Ⅲ	授業の概要 『般若心経』は、人々に最もよく知られている大乘仏教の代表的な経典である。弘法大師空海は、『般若心経』に関して独自の見解を披瀝する著作として『般若心経秘鍵』を著した。『般若心経秘鍵』は、『般若心経』の秘められた本質を解き明かす鍵になる書物という意味を持つ。授業では、この思想の背景にある思想を確認しつつ、『般若心経秘鍵』の原典を読み進めていく。
学期	授業計画 1. 概論（講義の進め方等） 2. 『般若心経秘鍵』の特色① 3. 『般若心経秘鍵』の特色② 4. 『般若心経』の基礎知識 5. 『般若心経秘鍵』の歴史的背景と内容構成 6. 序「題目・帰敬序・発起序・大綱序・大意序」 7. 正宗分「『般若心経』の題号の釈」 8. 「『般若心経』の要旨」 9. 「『般若心経』の五分科」 10. 「入法総通分」 11. 「分別諸乗分・普賢菩薩の悟り」 12. 「文殊菩薩の悟り」 13. 「弥勒菩薩の悟り」 14. 「声聞と縁覚の悟り」 15. レポート試験
前期	テキスト 高野山大学編『十巻章』高野山大学出版部
単位数	2
担当者	参考書・参考資料等 松長有慶『空海 般若心経の秘密を読み解く』春秋社
松長恵史	学生に対する評価 授業内で講読演習を行うので、出席を重視する。また、各自の授業内での演習およびレポートで判断する 試験 50% 平常点 50% その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：弘法大師空海の著作に親しみ、その思想の特質を理解する テーマ：『般若心経秘鍵』を読む
祖典講読Ⅳ	授業の概要 『般若心経秘鍵』についての概論と、前期の授業で扱った内容の復習から始め、前期に引き続いて、『般若心経秘鍵』を講読する。前期に引き続き授業を行うので、「祖典講読Ⅲ」を受講することが好ましい。
学期	授業計画 1. 概論（講義の進め方等） 2. 『般若心経秘鍵』の特色 3. 『般若心経』の基礎知識 4. 『般若心経秘鍵』の歴史的背景と内容構成 5. 「分別諸乗分・観音菩薩の悟り」 6. 「行人得益分」 7. 「総持持明分」 8. 「秘藏真言分」 9. 「問答形式の補説」 10. 「流通分」 11. 「上表分」 12. 『般若心経秘鍵』のまとめ① 13. 『般若心経秘鍵』のまとめ② 14. 弘法大師空海の『般若心経』理解の独自性 15. レポート試験
後期	テキスト 高野山大学編『十巻章』高野山出版
単位数	2
担当者	参考書・参考資料等 松長有慶『空海 般若心経の秘密を読み解く』春秋社
松長恵史	学生に対する評価 授業内で講読演習を行うので、出席を重視する。また、各自の授業内での演習およびレポートで判断する 試験 50% 平常点 50% その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標： テーマ：
	授業の概要
	授業計画
学期	
単位数	
	テキスト
	参考書・参考資料等
担当者	
	学生に対する評価
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標： テーマ：
	授業の概要
	授業計画
学期	
単位数	
	テキスト
	参考書・参考資料等
担当者	
	学生に対する評価
	その他

科目名	真言密教講読演習2-1(別)
授業の到達目標及びテーマ	到達目標：真言教学の基礎にある即身成仏の思想形成の背景について 真言宗典の講読を通じて理解する テーマ：インド密教における即身成仏思想の形成と展開
授業の概要	即身成仏は真言教学にとって欠かすことのできない根本思想であるが、正しく理解するためにはその成立の背景をきちんと押さえておく必要がある。授業では、空海の即身成仏思想を確認したうえで、インドの宗教史全体の中から即身成仏思想の位置づけを確認する。具体的には、仏教史における「成仏」観の変遷を辿ることにより仏教内部における背景を探り、その一方でヒンドゥー教シヴァ派の初期タントラ文献類を検討して仏教外部からの影響を探る。その上で真言宗所依の経典『大日経』『金剛頂経』に登場する即身成仏思想を読み解く。さらにインド後期密教への展開を確認し即身成仏思想の総合的な理解を深める。
授業計画	1. 導入 2. 空海の即身成仏思想概観 3. インド宗教史全体からみた即身成仏思想 4. 仏教史全体からみた即身成仏思想の位置づけ1 5. 仏教史全体からみた即身成仏思想の位置づけ2 6. 仏教史全体からみた即身成仏思想の位置づけ3 7. 仏教外部における即身成仏思想1 8. 仏教外部における即身成仏思想2 9. 中期密教経典の即身成仏説1 10. 中期密教経典の即身成仏説2 11. 中期密教経典の即身成仏説3 12. 中期密教経典の即身成仏説4 13. 後期密教経典の即身成仏説1 14. 後期密教経典の即身成仏説2 15. 総括
テキスト	授業で指示します。
参考書・参考資料等	授業で指示します。
学生に対する評価	授業中の発表など30%、平常点30%、テスト40%
その他	
学期	後期
単位数	2
担当者	加納和雄

科目名	密教講読演習2-1(別)
授業の到達目標及びテーマ	到達目標：基本的な図像資料を講読し、漢訳図像資料を研究資料として扱えるようになることを目的とする。 テーマ：図像学における密教尊格の表現、および尊格構成とその譜系について学ぶ。
授業の概要	インドに興り、東南アジア・中国を経由し、日本に流布した密教は、その発展過程において様々な尊格を生み出した。当授業では密教図像に基づいて、大乘仏教の尊格を含め、それぞれの密教尊格の形成と発展について、主として漢訳資料の像造表現を中心に考察を加える。インドの図像資料としては、『サーダナマラー』や『ニシュパナヨーガーヴァリー』等が基本的な資料であるが、まず、漢訳密教経典・儀軌、ならびに我が国に現存する図像資料を講読し、それぞれの図像的特徴からその尊格の展開をたどる。
授業計画	1. 概論（講義の進め方等） 2. 漢訳資料の基本的な扱い方 3. 漢文資料の基本的な講読練習① 4. 漢文資料の基本的な講読練習② 5. 尊格表現方法の基本知識① 6. 尊格表現方法の基本知識② 7. 尊格表現方法の基本知識③ 8. 尊格表現方法の基本知識④ 9. 漢訳図像資料講読① 10. 漢訳図像資料講読② 11. 密教尊格の基本的な知識を深めるための密教経典・儀軌の考察 12. 図像資料講読練習① 13. 図像資料講読練習② 14. 図像資料講読練習③ 15. レポート試験
テキスト	大正新脩大蔵経 図像部
参考書・参考資料等	松長有慶編『密教を知るためのガイドブック』法蔵館 1995年 頼富本宏・下泉全曉『密教仏像図典』人文書院 1994年 佐和隆研『仏像図典』吉川弘文館 1962年
学生に対する評価	授業内で講読演習を行うので、出席を重視する。また、各自の授業内での演習およびレポートで判断する 試験50% 平常点50%
その他	
学期	前期
単位数	2
担当者	松長恵史

科目名	仏教美術講読演習A
授業の到達目標及びテーマ	到達目標：仏教美術に親しみ、正しい美術史を理解することを到達目標とする。 テーマ：日本仏教美術史－仏像に親しむ（飛鳥時代～天平時代）－
授業の概要	寺院のご本尊として祀られる仏像は崇高な礼拝の対象である一方、歴史的文化遺産としての意義も重要視されなければならない。講義では飛鳥時代から天平時代の仏像の歴史を信仰や技法・作風などの特性を踏まえて概観する。
授業計画	1. 飛鳥大仏の源流 2. 法隆寺銅造釈迦三尊像 3. 百済観音と救世観音 4. 半跏思惟像は弥勒菩薩？ 5. 飛鳥仏と白鳳仏の違い 6. 薬師寺薬師三尊像について 7. 当麻寺白鳳仏にみる時代背景 8. 興福寺阿修羅像造像の経緯 9. 東大寺法華堂諸像をめぐる謎 10. 東大寺大仏造立の経緯 11. 鑑真と唐招提寺の仏像 12. 悔過の風習と檀像 13. 空海の拝した天平密教像 14. 天平仏の技法（塑造） 15. 天平仏の技法（乾漆造）
テキスト	参考資料を配布する。
参考書・参考資料等	講義中に指示する。
学生に対する評価	出欠席を最も重視する。 後期講義終了までに各自テーマを提出し、原稿用紙10枚程度のレポートを提出する。
その他	仏教美術講読演習B（後期）を履修・聴講することが望ましい。
学期	前期
単位数	2
担当者	緒方啓介

科目名	仏教美術講読演習B
授業の到達目標及びテーマ	到達目標：仏教美術に親しみ、正しい美術史を理解することを到達目標とする。 テーマ：日本仏教美術史－仏像に親しむ（平安時代～鎌倉時代）－
授業の概要	寺院のご本尊として祀られる仏像は崇高な礼拝の対象である一方、歴史的文化遺産としての意義も重要視されなければならない。講義では平安時代から鎌倉時代の仏像の歴史を信仰や技法・作風などの特性を踏まえて概説する。
授業計画	1. 神護寺本尊の怒りの訳 2. 東寺講堂諸像の神秘性 3. 室生寺本尊像に見る絵画性 4. 留学僧の請来仏 5. 渡岸寺十一面観音像の魅力 6. 末法到来と浄土教の隆盛 7. 平等院阿彌如来像の拝み方 8. 藤原仏にみる平安貴族の雅 9. 中尊寺金色堂の諸像 10. 運慶様式確立の背景 11. 東大寺南大門金剛力士像の造立経緯 12. 俊乗房重源と快慶 13. 庶民仏教が求めた仏像 14. 鎌倉新仏教の美術 15. 円空と木喰の仏像
テキスト	参考資料を配布する。
参考書・参考資料等	講義中に指示する。
学生に対する評価	出欠席を最も重視する。 後期講義終了までに各自テーマを提出し、原稿用紙10枚程度のレポートを提出する。
その他	仏教美術講読演習A（前期）を履修・聴講することが望ましい。
学期	後期
単位数	2
担当者	緒方啓介

科目名	仏教学講読演習C
学期	前期
単位数	2
担当者	藤田光寛
授業の到達目標及びテーマ 到達目標： 後期仏教（インド密教）にとって、小乗仏教と大乘仏教、タントラ仏教との三者の思想の相違に対して、密教の立場から如何に整合性のある解釈を与えるかが大切な課題の1つであった。インド密教の総決算はこの点にあると言っても過言ではない。この問題を戒律思想の点に焦点をあてて理解する。 テーマ：インド・チベット仏教戒律思想史（1）	
授業の概要 チベット仏教のサキヤ派のサキヤパンディタ（＝サパン、1182－1251）が著した『三律儀細別』を読む。受講生に応じて、このチベット語文献が英文解説書のいずれかを読解しながら解説し、小乗仏教と大乘仏教、タントラ仏教との三者の戒律（すなわち三律儀）の特徴、相違点、類似点などを学ぶ。	
授業計画 下記の文献を精読しながら解説するが、受講生には分担を決めて発表してもらうので、十分な予習が必要です。当該テキストを毎回予習して講義に臨むこと。 1. オリエンテーション 2. サパンの生涯とその作品 3. 三律儀について 4. 小乗の戒律（すなわち波羅提木叉律儀）について 8. 大乘の戒（すなわち菩薩律儀）について 6. 密教の戒（すなわち真言律儀） 7～15. 密教の戒の章の講読	
テキスト 授業時に適宜プリントして配布する。 ① Sakya Pandita Kunga Gyaltsan: A Clear Differentiation of the Three Codes, transl. by Jared Douglas Rhoton. State Univ. of New York Press, 2002 ② Sakya Pandita Kun dgah rgyal mtshan : sDom pa gsum gyi rab tu dbye ba. 『サキヤ派全書』 Vol.5 No.4	
参考書・参考資料等 藤田光寛『仏教徒のあり方と戒律』（高野山大学） 森章司編『戒律の世界』東京：溪水舎 1993年 佐藤密雄『律蔵』（＝仏典講座4）大蔵出版（株） 昭和47年など	
学生に対する評価 期末の試験（60%）、平常点（20%）、小試験（20%）によって評価する。	
その他 3回以上理由もなく無断で欠席した者は、受講者名簿から削除するので注意すること。 担当者のメールアドレスは fujita@koyasan-u.ac.jp です。で、質問などがあれば遠慮無く利用してください。	

科目名	日本文化講読演習
学期	前期
単位数	2
担当者	下西忠
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：古典文学（和歌）の鑑賞力を養う。 テーマ：和歌の魅力	
授業の概要 古典の和歌を深く鑑賞することによって、和歌の魅力と古代から中世にかけての人々の和歌への思いを理解する。『万葉集』『古今集』『新古今集』のいわゆる三大集を中心に鑑賞することにする。	
授業計画 1. ガイダンス 和歌とはどのようなものか 2. 和歌の修辭（掛詞・縁語・序詞など） 3. 『古今集』仮名序 4. 『万葉集』（1）山上憶良と山部赤人 5. 同上（2）柿本人麻呂 6. 『古今集』（1）撰者の歌 7. 同上（2）六歌仙の歌 8. 『新古今集』（1）撰者の歌 9. 同上（2）後鳥羽院の歌など 10. 同上（2） 11. 和歌説話を読む（1） 12. 和歌説話を読む（2） 13. 道歌としての御詠歌 14. 江戸時代以降の和歌の概観 15. まとめ	
テキスト 教員が用意する。	
参考書・参考資料等 講義の中で指摘する。	
学生に対する評価 平常点50%、レポート（50%）	
その他	

科目名	中国語文化講読演習1
学期	前期
単位数	2
担当者	南昌宏
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：漢文を読むために必要な語彙・知識を修得し、専門的な文章を読むのに慣れることを到達目標とする。 テーマ：『文選』を読む。	
授業の概要 テキストは「原文」「訓読」「翻訳」「語注」「解説」から成る。この授業では、テキストの漢字すべてにふりがなを付けながら読み、分からない言葉はすべて調べて理解するよう努める。受講生は必ず予習が必要である。	
授業計画 1. 「孔文学薦禰衡表」を読む。（1） 2. 「孔文学薦禰衡表」を読む。（2） 3. 「孔文学薦禰衡表」を読む。（3） 4. 「孔文学薦禰衡表」を読む。（4） 5. 「孔文学薦禰衡表」を読む。（5） 6. 「諸葛孔明出師表」を読む。（1） 7. 「諸葛孔明出師表」を読む。（2） 8. 「諸葛孔明出師表」を読む。（3） 9. 「諸葛孔明出師表」を読む。（4） 10. 「諸葛孔明出師表」を読む。（5） 11. 「曹子建求自試表」を読む。（1） 12. 「曹子建求自試表」を読む。（2） 13. 「曹子建求自試表」を読む。（3） 14. 「曹子建求自試表」を読む。（4） 15. 「曹子建求自試表」を読む。（5）	
テキスト 新釈漢文大系『文選』のコピーを配布する。	
参考書・参考資料等 『大漢和辞典』、『アジア歴史事典』、『中国学芸大事典』	
学生に対する評価 授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする（『学生手帳』参照）。 遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。出席は点数化しない。 予習成果の発表30%、期末試験70%で評価する。	
その他 受講者の人数が少ない場合は、受講生と相談してテキストを変更する場合がある。	

科目名	
学期	
単位数	
担当者	
授業の到達目標及びテーマ 到達目標： テーマ：	
授業の概要	
授業計画	
テキスト	
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	
その他	

科目名	漢字ⅡⅠ／漢字ⅡⅡ
授業の到達目標及びテーマ	到達目標： テーマ：【前期】 今年が書体を楷書体、行書体に限定し、その中から一つの法帖を自分で選択し、実習する。その法帖の形、線の特徴をつかみ、実際に上手に表現できるように努める。 【後期】 上記2書体に草書体を加えた書体から法帖を一冊選び、その法帖の形、線などの特徴が、実際に表現できるように努める。
授業の概要	臨書中心の実技の授業である。臨書作品を授業中に添削し、参考に指導者が目の前で書いてみせる。授業中に筆を執って書くだけでは絶対に上達はない。自宅でも筆を持つよう心がけて欲しい。個人指導を中心に据えて授業を進める。
授業計画	【前期】 1. 授業の方針、法帖の選び方、どんな授業を展開していくのかを説明した後、各自が法帖を選ぶ。 2. 法帖の臨書 3. 法帖の臨書 4. 法帖の臨書 5. 法帖の臨書 6. 法帖の臨書 7. 法帖の臨書 8. 今まで実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。 9. 法帖の臨書 10. 法帖の臨書 11. 法帖の臨書 12. 法帖の臨書 13. 法帖の臨書 14. 法帖の臨書 15. 後半実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。 【後期】 1. 各自が法帖を選ぶ。指導者はその相談に応じ共に考えながら法帖を選ぶ。 2. 法帖の臨書 3. 法帖の臨書 4. 法帖の臨書 5. 法帖の臨書 6. 法帖の臨書 7. 法帖の臨書 8. 今まで実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。 9. 法帖の臨書 10. 法帖の臨書 11. 法帖の臨書 12. 法帖の臨書 13. 法帖の臨書 14. 法帖の臨書 15. 後半実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。
テキスト	各自が二玄社あるいは別の法帖から1冊選ぶ。
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	2回のレポート、出席回数、授業態度などで評価する。
その他	
学期	前期 通年 後期
単位数	1 2 1
担当者	木本 滋久

科目名	かなⅡⅠ／かなⅡⅡ
授業の到達目標及びテーマ	到達目標：【前期】 かなⅠの基本の上に個性豊かな古筆の原寸大臨書をし、それをもとに創作すること。 【後期】 各自が選んだ古筆を拡大し、自己表現の技術を身につけること。 テーマ：【前期】 三色紙の中から各自一つを選び臨書をくり返し、その特徴をとらえること。 【後期】 古筆を基本とした自己表現の方法を見つける。
授業の概要	【前期】 かなⅠおよびそれと同程度のかな経験者を対象にかなの技術知識のより上達をめざす。ちらし書きの名品としての古筆を知り、各自よりひかれるものを一つえらび練習する。臨書から創作へと進む。 【後期】 決定した古筆を形式をかえて拡大臨書から創作へ、そしてより大きな料紙へと移っていき、これが自分独自の自己表現の形だと納得するまで錬成する。
授業計画	【前期】 1. 講義目標、概要の解説、書歴アンケート 2. 三色紙の解説、各自の古筆を決定する。 3～10. 選んだ古筆を原寸大臨書・小レポートを提出・古筆名の由来解説・料紙解説 11～15. 各古筆の雰囲気を出して創作する 【後期】 1～4. 各自選んだ古筆を大色紙大に拡大臨書。 5～8. 半横紙大に拡大臨書する。 9～12. 大色紙または半横紙大に創作(古筆の雰囲気を残して)。 13～15. 今まで習った作品のうち一つを全横紙または半切に拡大作品を創る。
テキスト	三色紙
参考書・参考資料等	古筆全般
学生に対する評価	出席重視。1/3以上欠席者は評価しません。臨書・創作各50%。
その他	粘り強く地道にくり返し練習することが大事です。全授業出席の気持ちが大事です。
学期	前期 通年 後期
単位数	1 2 1
担当者	山本 圭子

科目名	哲学方法論(別)
授業の到達目標及びテーマ	到達目標： テーマ：現代政治哲学入門
授業の概要	5人を助けるために1人を犠牲にすることは正しい行為か——こうした具体的問題を通して、政治哲学の基礎的思考方を学びます。具体的問題を考える中で、いろいろな連関の中で問題を考える力、原則と現実との間を往復する力、哲学的思考力の育成を目指します。
授業計画	1. 哲学とは何か？ 2. 功利主義の考え方 3. ベンサムとミル 4. 自由至上主義の考え方 5. 市場と道徳 6. 代理母の問題 7. 義務論の考え方 8. イマヌエル・カント 9. 公正としての正義 10. ジョン・ロールズ 11. アファーマティブ・アクションの正当性 12. アリストテレスと徳の倫理学 13. 「信念の固め方」 14. プラガマティズム格言 15. プラガマティズム格言
テキスト	マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』(ハヤカワ文庫)
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	期末テスト65点、小テスト20点、平常点15点
その他	
学期	後期
単位数	2
担当者	山脇 雅夫

科目名	宗教学方法論
授業の到達目標及びテーマ	到達目標：宗教の働きを学ぶことを通して、宗教学の視座と研究手法を理解すること。 テーマ：宗教学研究法を学ぶ
授業の概要	指定テキストのトピックスにもとづいて講義する。
授業計画	1. オリエンテーション 2. 日本の宗教の特徴 3. 宗教とは何かを考える 4. 〃 5. 〃 6. 宗教と社会 7. 〃 8. 〃 9. 〃 10. 〃 11. 日本人と宗教 12. 〃 13. 〃 14. 〃 15. 〃
テキスト	岡田典夫 他編『はじめて学ぶ宗教』(有斐閣)1995円 (本学生協で購入すること)
参考書・参考資料等	①脇本平也『宗教学入門』(講談社学術文庫) ②島田進 編『宗教学キーワード』(有斐閣、2006年)など
学生に対する評価	期末の筆記試験(60%)、平常点(20%)小試験(20%)によって評価する。
その他	毎回、指定テキストや参考文献に目を通して授業に出席することが基本的条件です。授業ではノートを取り、整理をしておいてください。毎回休まずに出席すること。 担当者のメールアドレスはfujita@koyasan-u.ac.jpですから、質問等があれば遠慮無くこれを利用してください。
学期	後期
単位数	2
担当者	藤田 光寛

科目名	書道史ⅠA (中国)
学期	前期
単位数	2
担当者	野田 悟
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：中国文化に興味を持ち、文字の起源から芸術としての書の内容確立までの歴史の流れを理解することを到達目標とする。 テーマ：中国書道及び文化史基礎知識の養成。	
授業の概要 アジア文化の根幹は漢字であることを念頭に、BC2000年前の刻符を文字の起源とし、それがどういう経緯を経て実用及び芸術の域へ昇華して行ったかを中国の書道史を時代的に学びながら説明する。またそれが今日の我々の生活における影響を与えたかも知あわせて考えてみたい。ビデオ・資料も積極的に活用し、単なる知識として理解するだけではなく、視覚的又実用的にも書道史をとらえるように促したい。その他、日中の中国書道史のとらえ方の違いなども述べてみたい。	
授業計画 1. 漢字の起源 漢字の創生 六義 2. 先秦 甲骨文 3. 金文・石鼓文 4. 秦 秦代書道概観 篆書の制定 5. 秦の刻石 権量 詔版 瓦当 磚 6. 漢 漢代書道概観 隸書の盛期 古隸と八分 7. 代表的漢碑と章草 紙の発明と発展 『説文解字』 8. 三国 三国時代書道概観 9. 六朝 六朝時代書道概観 南朝の刻帖と能書家 10. 王羲之と王献之 11. 北朝の書道概観 六朝楷書 北朝能書家と代表碑刻 12. 隋 隋代書道概観 13. 隋の代表的碑刻 14. 唐 初唐の書道概観 15. 初唐の四大家とその代表的作品	
テキスト 『決定版』中国書道史 角井博監修 芸術新聞社 定価 2800 円 (大学生協にて購入) その他、必要に応じてプリント配布。	
参考書・参考資料等 ・『中国美術全集』(書法篆刻編) 中国美術全集編輯委員会 ・『書道全集』平凡社 ・『中国書法史』江蘇教育出版社 ・『墨スペシャル9 図説中国書道史』芸術新聞社	
学生に対する評価 授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。 遅刻・早退は3分の1の欠席として計算する。 前期末テストで100%の評価をする。	
その他	

科目名	書道史ⅠB (中国)
学期	後期
単位数	2
担当者	野田 悟
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：中国文化に興味を持ち、時代別書風の変化をはじめとする書道理論の形成、発展を理解することを目標とする。 テーマ：さまざまな書体、書風の変遷及び金石学・印学等書道理論の芽生えと発展。	
授業の概要 日本の奈良時代の書道史に大きな影響を与えた、唐代の書道概観を詳細に述べ、宋・明・清代への多彩な書風及び理論が発展していく様子を多く取り入れ解説する。また書は、文学、哲学そしてその他の芸術をはじめ諸々の文化と密接に関わるものであるため、可能な限りそうした周辺の文化的事柄とも絡めて眺めてゆくこととしたい。	
授業計画 1. 中唐 中唐の書道 2. 顔真卿の書 孫過庭『書譜』と張懷瓘『書議』・『書断』 3. 晚唐 晚唐の書道 4. 五代 五代の書道概観 5. 宋 宋の書道概観 6. 北宋の四大家 7. 金石学の芽生え 淳化閣帖と集帖 8. 南宋の能書家 9. 元 元代の書道概観 趙孟頫と吾丘衍 10. 明 明代の書道概観 11. 明代古典派 12. 明末清初のロマン派 長条幅のはじまり 13. 清 清代の書道概観 14. 碑学の勃興 15. 権清末の碑学派	
テキスト 『決定版』中国書道史 角井博監修 芸術新聞社 定価 2800 円 その他、必要に応じてプリント配布。	
参考書・参考資料等 ・『中国美術全集』(書法篆刻編) 中国美術全集編輯委員会 ・『書道全集』平凡社 ・『中国書法史』江蘇教育出版社 ・『墨スペシャル9 図説中国書道史』芸術新聞社	
学生に対する評価 授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。 遅刻・早退は3分の1の欠席として計算する。	
その他	

科目名	真言密教方法論講義Ⅰ
学期	前期
単位数	2
担当者	静 慈 園
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：空海の書いた漢字の文章を分析することによって、空海その人を知る。 テーマ：「為大使与福州觀察使書」を読む。	
授業の概要 この講義での真言密教とは、空海を学ぶことである。学問としての「密教を学ぶ方法論」は、先生各自が異にするところである。ここでは空海の文章を読むための私(静)の方法論を講義する。	
授業計画 1. シラバスの説明。講義の進め方について説明する。 2. 空海の生涯を考える。 3. 空海が残した著作の内、「密教思想」・「書簡類」の著作を考える。 4. 「性靈集」を考える。 5. 「為大使与福州觀察使書」を読む。 ① これまでに出版されている原文・書き下し文・訳を基本にする。 ② 原文の読み方として、特に「対句」を意識して、全文を並び変えた表を作成する。 (表作成を指導する。) - レポートとして提出 - ③ 以下順次読み進める。(演習形式) ④ 読み進める。(演習形式) ⑤ 読み進める。(演習形式) ⑥ 読み進める。(演習形式) ⑦ 読み進める。(演習形式) ⑧ 読み進める。(演習形式) ⑨ 読み進める。(演習形式) ⑩ 読み進める。(演習形式) 6. 総括	
テキスト コピーを配布する。	
参考書・参考資料等 授業で指示する。	
学生に対する評価 授業中に実施する小テスト、レポート、授業中の発表、試験で70パーセント。 平常点30パーセント。	
その他	

科目名	真言密教方法論講義Ⅱ
学期	後期
単位数	2
担当者	松長 恵史
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：図像学的研究を資料を研究資料として扱えるようになることを目的とする。 テーマ：図像学における密教尊格の表現、および尊格構成とその譜系について学ぶ。	
授業の概要 密教学講義演習 真言宗典講読2-1(別)に引き続き、漢訳資料の講義を中心として図像学的見地から様々な尊格の比較研究を行う。 本授業では、図像資料講義演習を引き続き進めながら、各自で演習テーマとする尊格を決め、その尊格の譜系についての図像学的考察をまとめる内容となる。そのため、基礎知識として前期の授業での講義演習が不可欠となるので通期で受講することが望ましい。	
授業計画 1. 概論(講義の進め方等) 2. 漢訳資料の基本的な扱い方 3. 漢訳資料の基本的な講義練習 4. 尊格表現方法の基本知識 5. 図像資料講義演習① 6. 図像資料講義演習② 7. 図像資料講義演習③ 8. 各自で研究テーマとする尊格の演習① 9. 各自で研究テーマとする尊格の演習② 10. 各自で研究テーマとする尊格の演習③ 11. 各自で研究テーマとする尊格の演習④ 12. 各自で研究テーマとする尊格の演習⑤ 13. 各自で研究テーマとする尊格の演習⑥ 14. 各自で研究テーマとする尊格の演習⑦ 15. レポート試験	
テキスト 大正新脩大藏經 図像部	
参考書・参考資料等 松長有慶編 『密教を知るためのガイドブック』 法蔵館 1995年	
学生に対する評価 授業内で講義演習を行うので、出席を重視する。また、各自の授業内での演習およびレポートで判断する 試験50% 平常点50%	
その他	

科目名	密教文化方法論講義Ⅱ
学期	前期
単位数	2
担当者	奥山直司
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：①密教文化の研究の対象と方法論の多様性について理解を深める。 ②特定のテーマについて自ら調べ、考え、それを適切な言葉で表現できる。 テーマ：密教文化をどのように研究するか。	
授業の概要 一口に密教の文化といっても、その意味するものは多様である。それに応じて、その研究にもさまざまな方法論やアプローチの仕方がある。本授業では、そうしたさまざまな方法を実際の研究に即して紹介し、密教文化をどのように学び、研究したらよいかを一緒に考えてゆく。	
授業計画 1. イントロダクション 2. 「南方マンドラ」論1 3. 「南方マンドラ」論2 4. 密教美術1 5. 密教美術2 6. 密教と哲学、宗教学、人類学、民俗学 7. 密教と生命倫理 8. 密教と文学 9. 神秘体験、超心理学、瞑想 10. 聖地と巡礼 11. 密教系新宗教 12. 密教をどう伝えるか1 13. 密教をどう伝えるか2 14. 小説の中の弘法大師 15. まとめ	
テキスト 松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』法蔵館	
参考書・参考資料等 教室でそのつと指示する	
学生に対する評価 平常点30%（遅刻3回で1欠席と見なす）、授業参加状況30%、期末レポート40%	
その他	

科目名	篆刻A
学期	前期
単位数	2
担当者	野田悟
授業の到達目標及びテーマ 到達目標： 1. 古代文字（小篆および篆印篆）の基本的認識。 2. 書学・金石学における簡印・篆刻の役割の重要性及び関連性の理解。 3. 各時代に沿った印章のの違いの理解をもつての刻印技術の修得。 テーマ：漢印による篆刻の理論と実践。	
授業の概要 ・篆刻の一番基礎と言われる漢代前後の印章の模刻を中心に実践、理論の双方より学び、最終的に書学との関連及びその特徴をつかみ、それをもとに創作する。 ・国内の他大学にはない中国伝統的方法を前提とした指導を行う。	
授業計画 1. オリエンテーション 2. 古代印章の起源と歴代重印の変遷 3. 印材・工具の紹介と刀法 4. 側款の練習 5～6. 毛筆での篆書と双稿填墨・印稿の練習 7～8. 漢印 9～10. 秦印 11. 漢印または秦印による創作 12. 將軍印 13. 玉印 14. 肖形印 15. これまでの模刻をもとに創作・作品提出	
・進度により順番を入れ替えたり、省略する場合あり。	
テキスト ・書道講座第6巻『篆刻』（二玄社刊） ・その他必要に応じてプリントを配布	
参考書・参考資料等 ・『説文解字』（中華書局）・『印学史』（西泠印社） ・『故宮博物院藏古璽印選』（文物出版社） ・『上海博物館藏印選』（上海書画出版社） ・養毛政雄編『必携篆書印譜字典』（柏美術出版） ・『書の基本資料14・篆刻』（中教出版）	
学生に対する評価 ・基本的に提出作品による100%の評価。 ・授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。 ・遅刻・早退は3分の1の欠席として計算する。	
その他 ・用具、用材は、大阪の書道用品店にて各自で購入のこと。（最初の授業で説明する。） ・実技の授業なので、毎回の宿題が課される。（当然これも提出物の評価の対象とみなす。） ・一度欠席したら、学生自身かなりの損失を被るのでその辺を心得て望むこと。 ・昨年受講した者は、秦代以前の古璽を個別に指導する。	

科目名	篆刻B
学期	後期
単位数	2
担当者	野田悟
授業の到達目標及びテーマ 到達目標： 1. 古代文字及び流派印の基本的認識。 2. 書学・金石学における篆刻の役割の重要性及び関連性の理解。 3. それぞれの流派印の理解をもつての刻印技術の修得。 テーマ：流派印の理論と実践。	
授業の概要 明代により急激に発展した篆刻芸術は、その後徽派・浙派に分別され、後の吳昌碩により双方の特徴を備えた篆刻も出現する。これらの篆刻史を基本線の上に最終的にそれらをもとにした創作を行う。	
授業計画 1. オリエンテーション 2. 側款の練習 3～4. 流派印の出現とその変遷（理論） 5～7. 鄧石如、吳讓之 8. 鄧石如、吳讓之の篆刻をもとに創作 9～11. 浙派 12. 吳昌碩 13. 黃士陵 14. 齊白石 15. 自用印の創作・作品提出	
＊（進度により順番を入れ替えたり、省略する場合あり。）	
テキスト ・書道講座第6巻『篆刻』（二玄社刊） ・その他必要に応じてプリントを配布	
参考書・参考資料等 ・『説文解字』（中華書局） ・『印学史』（西泠印社） ・養毛政雄編『必携篆書印譜字典』（柏美術出版） ・『書の基本資料14・篆刻』（中教出版） ・小原俊樹、勝目浩司編『図解・篆刻入門』（木耳社）	
学生に対する評価 ・基本的に提出作品による100%の評価。 ・授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。 ・遅刻・早退は3分の1の欠席として計算する。	
その他 ・受講は、前期の履修者のみに限る。 ・実技の授業なので、毎回の宿題が課される。（当然これも提出物の評価の対象とみなす。） ・一度欠席したら、学生自身かなりの損失を被るのでその辺を心得て望むこと。	

科目名	
学期	
単位数	
担当者	
授業の到達目標及びテーマ 到達目標： テーマ：	
授業の概要	
授業計画	
テキスト	
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	
その他	

科目名	密教学演習AⅠ
密教学演習AⅠ	1
学期	前期
単位数	2
担当者	中村本然
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：唐に留学した空海がどんな教えを学び、またどのような理由・思いで帰国したのかについて理解を深めることを通して、空海（密教）を研究するための方法を身につけることを目標とする。 テーマ：『御請来目録』	
授業の概要 空海の帰国報告書ともいうべき『御請来目録』には、①入唐求法中の動向、②請来した經典類、③密教受法の経緯、④顕教と密教の相違について、詳細に記してある。若き日の空海の密教に関する考えを理解したい。また卒論を作成するための講義でもあるので、演習時にそれぞれのテーマに応じた指導を行なうことにする。	
授業計画 1. 講義内容の説明 2. 入唐から帰国までの経緯報告① 3. 入唐から帰国までの経緯報告② 4. 入唐から帰国までの経緯報告③ 5. 入唐から帰国までの経緯報告④ 6. 開期の罪について① 7. 開期の罪について② 8. 新訳等の経について① 9. 新訳等の経について② 10. 新訳等の経について③ 11. 密教の相承について① 12. 密教の相承について② 13. 密教の相承について③ 14. 密教の相承について④ 15. 講義の総括 ※演習時には随時卒論のテーマに基づく指導を行なう。	
テキスト 『定本弘法大師全集』第一巻 高野山大学密教文化研究所	
参考書・参考資料等 宮坂有勝監修『空海コレクション2』ちくま学芸文庫 金岡秀友著『密教の哲学』講談社学術文庫	
学生に対する評価 平常点40%、試験60%とし、総合的に評価する。	
その他	

科目名	密教学演習AⅡ
密教学演習AⅡ	2
学期	後期
単位数	2
担当者	中村本然
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：唐に留学した空海がどんな教えを学び、またどのような理由・思いで帰国したのかについて理解を深めることを通して、空海（密教）を研究するための方法を身につけることを目標とする。 テーマ：『御請来目録』	
授業の概要 空海の帰国報告書ともいうべき『御請来目録』には、①入唐求法中の動向、②請来した經典類、③密教受法の経緯、④顕教と密教の相違について、詳細に記してある。若き日の空海の密教に関する考えを理解したい。また卒論を作成するための講義でもあるので、演習時にそれぞれのテーマに応じた指導を行なうことにする。	
授業計画 1. 講義内容の説明 2. 請来した梵字真言讀等について 3. 請来した論疏章等について 4. 請来した仏菩薩金剛天等について 5. 請来した道具について 6. 請来した阿闍梨付嘱物について 7. 密教の受法の経緯について① 8. 密教の受法の経緯について② 9. 恵果との師弟の交流について① 10. 恵果との師弟の交流について② 11. 般若三蔵の願いについて① 12. 般若三蔵の願いについて② 13. 顕教と密教について① 14. 顕教と密教について② 15. 講義の総括 ※演習時には随時卒論のテーマに基づく指導を行なう。	
テキスト 『定本弘法大師全集』第一巻 高野山大学密教文化研究所	
参考書・参考資料等 宮坂有勝監修『空海コレクション2』ちくま学芸文庫 金岡秀友著『密教の哲学』講談社学術文庫	
学生に対する評価 平常点40%、試験60%とし、総合的に評価する。	
その他	

科目名	密教学演習BⅠ
密教学演習BⅠ	1
学期	前期
単位数	2
担当者	奥山直司
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：エンゲイジド・ブディズムに代表される仏教実践の新潮流について理解を深めると同時に、外国語文献を含む文献資料の読解力を養い、論文作成のノウハウを身につける。 テーマ：仏教新潮流と密教	
授業の概要 今世界の仏教地図はエンゲイジド・ブディズムという言葉で一括される仏教実践の新しい潮流によって塗りかえられようとしている。本授業は、さまざまな形で顕れているこの新しい流れについて代表的な出版物の読解を通じて学んでゆく。当番制の輪読によって授業を進め、論じつつ考えてゆく。	
授業計画 1. ガイダンスーエンゲイジド・ブディズムとは何か 2. 阿満利磨『社会をつくる仏教』を読む1 3. 阿満利磨『社会をつくる仏教』を読む2 4. 阿満利磨『社会をつくる仏教』を読む3 5. 阿満利磨『社会をつくる仏教』を読む4 6. 阿満利磨『行動する仏教』を読む1 7. 阿満利磨『行動する仏教』を読む2 8. ランジャナ・ムコパディヤーヤ『日本の社会参加仏教』を読む1 9. ランジャナ・ムコパディヤーヤ『日本の社会参加仏教』を読む2 10. エンゲイジド・ブディズム関係外国語文献を読む1 11. エンゲイジド・ブディズム関係外国語文献を読む2 12. エンゲイジド・ブディズム関係外国語文献を読む3 13. エンゲイジド・ブディズム関係外国語文献を読む4 14. エンゲイジド・ブディズム関係外国語文献を読む5 15. まとめ	
テキスト 阿満利磨『社会をつくる仏教』人文書院、阿満利磨『行動する仏教』ちくま学芸文庫、ランジャナ・ムコパディヤーヤ『日本の社会参加仏教』東信堂	
参考書・参考資料等 教室で指示する。	
学生に対する評価 平常点20%、予習状況40%、授業参加状況40%	
その他	

科目名	密教学演習BⅡ
密教学演習BⅡ	2
学期	後期
単位数	2
担当者	奥山直司
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：エンゲイジド・ブディズムに代表される仏教実践の新潮流について理解を深め、現代社会における密教者の役割について考えると同時に、外国語文献を含む文献資料の読解力を養い、論文作成のノウハウを身につける。 テーマ：仏教新潮流と密教	
授業の概要 今世界の仏教地図はエンゲイジド・ブディズムという言葉で一括される仏教実践の新しい潮流によって塗りかえられようとしている。後期は、グライ・ラマ法王の思想と実践に関わる文献を取り上げ、輪読によって授業を進め、論じつつ考えてゆく。	
授業計画 1. ガイダンスーチベット近現代史 2. チベット近現代史 3. グライ・ラマ法王の自伝を読む1 4. グライ・ラマ法王の自伝を読む2 5. グライ・ラマ法王の著作を読む1 6. グライ・ラマ法王の著作を読む2 7. グライ・ラマ法王の著作を読む3 8. グライ・ラマ法王の著作を読む4 9. グライ・ラマ法王の著作を読む5 10. グライ・ラマ法王の著作を読む6 11. グライ・ラマ法王の著作を読む7 12. グライ・ラマ法王の著作を読む8 13. グライ・ラマ法王の著作を読む9 14. グライ・ラマ法王の著作を読む10 15. まとめ	
テキスト 教室で指示する。	
参考書・参考資料等 教室で指示する。	
学生に対する評価 平常点20%、予習状況40%、授業参加状況40%	
その他	

科目名	授業の到達目標及びテーマ
密教学演習 C-1	到達目標：仏教の基本思想を極める。 テーマ：仏教の基本思想を理解することによって、最終的に仏教の基本思想が密教のそれとどのようにつながっているかについての考察を行う。
学期	授業の概要 初期仏教聖典において最古層の成立と目されている『スッタニパータ』の翻訳作業を主軸として、幾つかのミカーヤ文献の解説を通して、後に展開される大乘さらには密教という思想的体系へと繋がって行くかについて概観する。
準前期	授業計画 1. オリエンテーション 2. 『スッタニパータ』を購読することによって、釈尊の肉声を確認する作業を行う。 3. 5回程度までは、同様の作業を行う。 4. 幾つかのミカーヤ文献を購読することによって、仏教教団が実質的に形成された後の、初期仏教教団内部の様相を原典から探っていく。(9回～14回まで) 5. 総まとめ
単位数	テキスト 『スッタニパータ』(担当者和訳)のコピーテキスト、ニカーヤ文献(担当者和訳)のコピーテキスト
2	参考書・参考資料等 講義時に必要に応じて紹介する。
担当者	学生に対する評価 授業の予習を怠らない態度と学期末のレポートによって評価する。
前谷彰	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
密教学演習 C-2	到達目標：仏教の基本思想を極める。 テーマ：仏教の基本思想を理解することによって、最終的に仏教の基本思想が密教のそれとどのようにつながっているかについての考察を行う。
学期	授業の概要 大乘仏典の購読を通して、仏教というものが初期仏教から大乘へと展開して行く中において、その根本思想がどのように変化したか、初期仏教思想とはその本質を異にするまでに至ったについて考察する。
準後期	授業計画 1. オリエンテーション 2. 1回～2回までは『般若経』の思想的特徴について概略する。 3. 3回～5回までは、『法華経』の思想的かつ歴史的背景について概略する。 4. 6回～7回までは、『華嚴経』の思想的勝『歴史的は池について概略する。 5. 8回～10回までは、『中観』『唯識』派の思想について概観する。 6. 11回～14回までは、弘法大師の思想に触れる。 7. 総まとめ
単位数	テキスト 『スッタニパータ』(担当者和訳)のコピーテキスト、ニカーヤ文献(担当者和訳)のコピーテキスト
2	参考書・参考資料等 講義時に必要に応じて紹介する。
担当者	学生に対する評価 授業の予習を怠らない態度と学期末のレポートによって評価する。
前谷彰	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
密教学演習 D-1	到達目標：サンスクリット原典を文献学的に解説する手法を身につけること テーマ：『瑜伽師地論』『本地分』中「五識身相応地・意地」の講読演習
学期	授業の概要 『瑜伽師地論』『本地分』冒頭の「五識身相応地」と「意地」のサンスクリット・テキスト(バクチャリヤ校訂本)を批判的に精読する。大学院の「仏教学演習1」との共通授業である。
準前期	授業計画 1. 瑜伽行派の諸論書と所依の経典についての概説 2. 『瑜伽師地論』についての概説 3. 『阿毘達磨俱舍論』『五蘊論』、並びに、『阿毘達磨集論』との比較対応箇所について 4. (同上) 5. 『瑜伽師地論』『本地分』冒頭の「五識身相応地」からサンスクリット・テキストを読む。 以下、原典講読を進める。
単位数	テキスト 授業で指示する。
2	参考書・参考資料等 授業で紹介する。
担当者	学生に対する評価 平常点評価。
室寺義仁	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
密教学演習 D-2	到達目標：サンスクリット原典を文献学的に解説する手法を身につけること テーマ：『瑜伽師地論』『本地分』中「五識身相応地・意地」の講読演習
学期	授業の概要 『瑜伽師地論』『本地分』冒頭の「五識身相応地」と「意地」のサンスクリット・テキスト(バクチャリヤ校訂本)を批判的に精読する。大学院の「仏教学演習2」との共通授業である。
準後期	授業計画 前期に引続き、『瑜伽師地論』中「本地分」の「意地」の原典講読を進める。
単位数	テキスト 授業で指示する。
2	参考書・参考資料等 授業で紹介する。
担当者	学生に対する評価 平常点評価。
室寺義仁	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
密教学演習 E-1	到達目標：文献研究に関わる者としての基本的な能力を養い、論文執筆に際しての作法や操作を習得する。 テーマ：漢文および中国語文献を読む。
密教学演習 E-1 C	
学期	授業の概要
前期	テキストの講読を主とする。講義中に問題となる箇所を選び、宿題とする。テキストには中国語の論文、または漢文を選定するが、開講後に受講生（特に4年生）の意見を採用する場合がある。
単位数	授業計画
2	1. 『大興善寺与唐密文化學術研究会論文集』より選択し、講読。 2. 『大興善寺与唐密文化學術研究会論文集』より選択し、講読。 3. 『大興善寺与唐密文化學術研究会論文集』より選択し、講読。 4. 『大興善寺与唐密文化學術研究会論文集』より選択し、講読。 5. 『大興善寺与唐密文化學術研究会論文集』より選択し、講読。 6. 『大興善寺与唐密文化學術研究会論文集』より選択し、講読。 7. 『大興善寺与唐密文化學術研究会論文集』より選択し、講読。 8. 『大興善寺与唐密文化學術研究会論文集』より選択し、講読。 9. 『大興善寺与唐密文化學術研究会論文集』より選択し、講読。 10. 『大興善寺与唐密文化學術研究会論文集』より選択し、講読。 11. 『大興善寺与唐密文化學術研究会論文集』より選択し、講読。 12. 『大興善寺与唐密文化學術研究会論文集』より選択し、講読。 13. 『大興善寺与唐密文化學術研究会論文集』より選択し、講読。 14. 『大興善寺与唐密文化學術研究会論文集』より選択し、講読。 15. 『大興善寺与唐密文化學術研究会論文集』より選択し、講読。
担当者	テキスト コピーを配布する。
南	参考書・参考資料等 特になし。
昌	学生に対する評価 授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする（『学生手帳』参照）。 遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。 期末テスト70%、授業中の小テスト30%で評価する。
宏	その他 テキストについては、開講後に受講生の意見を聞き、変更することがある。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
密教学演習 E-2	到達目標：文献研究に関わる者としての基本的な能力を養い、論文執筆に際しての作法や操作を習得する。 テーマ：漢文および中国語文献を読む。
密教学演習 E-2 C	
学期	授業の概要
前期	テキストの講読を主とする。講義中に問題となる箇所を選び、宿題とする。テキストには中国語の論文、または漢文を選定するが、開講後に受講生（特に4年生）の意見を採用する場合がある。
単位数	授業計画
2	1. 『中国密教史』より選択し、講読。 2. 『中国密教史』より選択し、講読。 3. 『中国密教史』より選択し、講読。 4. 『中国密教史』より選択し、講読。 5. 『中国密教史』より選択し、講読。 6. 『中国密教史』より選択し、講読。 7. 『中国密教史』より選択し、講読。 8. 『中国密教史』より選択し、講読。 9. 『中国密教史』より選択し、講読。 10. 『中国密教史』より選択し、講読。 11. 『中国密教史』より選択し、講読。 12. 『中国密教史』より選択し、講読。 13. 『中国密教史』より選択し、講読。 14. 『中国密教史』より選択し、講読。 15. 『中国密教史』より選択し、講読。
担当者	テキスト 呂建福『中国密教史』のコピーを配布する。
南	参考書・参考資料等 特になし。
昌	学生に対する評価 授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする（『学生手帳』参照）。 遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。 期末テスト70%、授業中の小テスト30%で評価する。
宏	その他 テキストについては、開講後に受講生の意見を聞き、変更することがある。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
密教学演習 F-1	到達目標：密教經典に対する理解力と分析力の養成 テーマ：『大日経』を読む
密教学演習 F-1 D	
学期	授業の概要
前期	弘法大師が平安初期に中国から日本に移植されたのは、『大日経』と『金剛頂経』の二つの經典を両部とする密教であった。大師晩年の代表的な著作『十住心論』は、悟りにいたるまでの心の転昇過程を十段階に分け、それらの十段階に儒教、道教、仏教によって教理的な説明を加えて、当時の諸思想を総合化したものである。その十住心思想の骨格を形成するための典拠となっているのが『大日経』および『大日経疏』である。本年度は『大日経』の住心品を取り上げ、とくに三句の法門を中心にして菩提心について考察する。
単位数	授業計画
2	1. シラバスの説明、講義の進め方等 2. 『大日経』の原典資料と研究資料の紹介 3. 『大日経』の内容概略の説明 4. 『大日経』の本文を読む（住心品）1 5. 同上2 6. 同上3 7. 同上4 8. 同上5 9. 同上6 10. 同上7 11. 同上8 12. 同上9 13. 同上10 14. 同上11 15. 同上12
担当者	テキスト 漢訳：『大毘盧遮那成佛神變加持經』大正848番 チベット訳：東北494番、北京126番 その他、プリント配布
乾	参考書・参考資料等 福田亮成訳『大日経』（新国訳大藏經 密教部1）大蔵出版 松長有慶『密教經典解説』（現代密教講座 第二巻）大東出版社 頼富本宏著『大日経入門』大法輪閣、他
仁	学生に対する評価 レポート60%、平常点40%
志	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
密教学演習 F-2	到達目標：密教經典に対する理解力と分析力の養成 テーマ：『大日経』を読む、および卒業論文の作成
密教学演習 F-2 D	
学期	授業の概要
前期	前期に引き続いて『大日経』の住心品を取り上げ、とくに三句の法門を中心にして菩提心について考察する。なお必要に応じて、『大日経』のチベット訳や漢蔵両訳の注釈とも照合しながら読み進める。
単位数	授業計画
2	1. 卒業論文中間報告会 2. 卒業論文中間報告会 3. 『大日経』の本文を読む（住心品）（続き）1 4. 同上2 5. 同上3 6. 同上4 7. 同上5 8. 同上6 9. 同上7 10. 同上8 11. 同上9 12. 同上10 13. 同上11 14. 同上12 15. 卒業論文の完成と提出
担当者	テキスト 漢訳：『大毘盧遮那成佛神變加持經』大正18巻848番 チベット訳：東北494番、北京126番 その他、プリント配布
乾	参考書・参考資料等 福田亮成訳『新国訳大藏經 密教部1』大蔵出版 松長有慶『密教經典解説』（現代密教講座 第二巻）大東出版社 頼富本宏著『大日経入門』大法輪閣、他
仁	学生に対する評価 レポート60%、平常点40%
志	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
密教学演習H-I-1	到達目標：密教經典を解説することによって漢文読解力と卒業論文を作成するための力を養いたい。 テーマ：『宿曜經』を読む。
密教学演習H-I-E	授業の概要 『宿曜經』を解説することによって漢文文献を取り扱う方法論を身につけてもらいたい。あわせて、卒業論文についての個別指導を行なう。
学期	授業計画
準前期	1. オリエンテーション 2. 『宿曜經』講読演習 3. 『宿曜經』講読演習 4. 『宿曜經』講読演習 5. 『宿曜經』講読演習 6. 『宿曜經』講読演習 7. 卒論中間発表 8. 卒論中間発表 9. 『宿曜經』講読演習 10. 『宿曜經』講読演習 11. 『宿曜經』講読演習 12. 『宿曜經』講読演習 13. レポート、論文の書き方 14. レポート、論文の書き方 15. まとめ
単位数	テキスト
2	『宿曜經』（大正21 No. 1299 担当者がコピーを配布します）
担当者	参考書・参考資料等
佐藤隆彦	森田龍徳著『密教占星法』（臨川書店） 松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法蔵館）
	学生に対する評価
	レポート60パーセント 平常点40パーセント
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
密教学演習H-II-2	到達目標：密教經典を解説することによって漢文読解力と卒業論文を作成するための力を養いたい。 テーマ：『宿曜經』を読む。
密教学演習H-II-E	授業の概要 『宿曜經』を解説することによって漢文文献を取り扱う方法論を身につけてもらいたい。あわせて、卒業論文についての個別指導を行なう。特に、後期には卒論作成の個別指導に力を入れたい。
学期	授業計画
準後期	1. オリエンテーション 2. 卒論目次の作成 3. 卒論目次の作成 4. 『宿曜經』講読演習 5. 『宿曜經』講読演習 6. 『宿曜經』講読演習 7. 卒論発表 8. 卒論発表 9. 『宿曜經』講読演習 10. 『宿曜經』講読演習 11. 『宿曜經』講読演習 12. 『宿曜經』講読演習 13. 卒論発表 14. 卒論発表 15. まとめ
単位数	テキスト
2	『宿曜經』（大正21 No. 1299 担当者がコピーを配布します）
担当者	参考書・参考資料等
佐藤隆彦	森田龍徳著『密教占星法』（臨川書店） 松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法蔵館）
	学生に対する評価
	レポート60パーセント 平常点40パーセント
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
密教学演習J-I-1	到達目標： 空海の遺言状とみなされてきた『遺告二十五ヶ条』（以下、『御遺告』）は、古来、空海の生涯を考えるとときの根本史料であった。しかし、今日では十世紀半ば以降の成立とみなされ、一次史料とは成りえなくなった。とはいえ、初期の真言宗教団の成立過程を考えるとときには、有力な史料の一つである。そこで、『御遺告』の最古の書本をテキストとして、写本の扱い方と読解力の修得を目標とする。 テーマ：『御遺告』を読む
密教学演習J-I-F	授業の概要 承和二年（835）三月十五日、空海が諸弟子に告げたとみなされてきた『御遺告』を、最古の写本である金剛峯寺本をテキストとして読み、内容の把握と問題点の指摘を通して、その成立年代の解明をめざしたい。最終的には、金剛峯寺本を底本とする校訂本を作成する。
学期	授業計画
準前期	1. はじめに - 空海研究の現状と課題 - 2. 関連史料と参考文献 3. 金剛寺本と『御遺告』の概要 4. 写本を扱う上での基本事項① - 写本と活字本 - 5. 写本を扱う上での基本事項② - フォント点と角筆 - 6. 以下、受講者は、各自分担して指定された個所の本分を筆写・校訂し、その校訂した本文にもとづいて訓読文と現代語訳を作成する。 7. 受講者は、①分担した個所の本文（写本）をいかに解読したか（筆写・校訂）、②その本分をどのように読んだか（訓読文）、③いかに理解したか（現代語訳）、を順番に報告する 8. 本年度は第十三条から解説する。
単位数	テキスト
2	金剛寺本『御遺告』一帖（平安中期写本）
担当者	参考書・参考資料等
武内孝善	・『御遺告』の活字本（『定本弘法大師全集』第7巻所収本） ・註釈書類（『続真言宗全書』第26巻） ・柴島 裕『平安時代訓点本論考』汲古書院 ・小林芳規『角筆文献研究導論』（四冊）汲古書院
	学生に対する評価
	授業への参加度（60%）と数回のレポート（40%）とを総合して評価する。
	その他
	①写本が扱えるようになると、活字本だけしか使えないときに比べて、研究範囲が大幅に拡大されます。 ②積極的に講義に参加し、写本の扱い方をマスターしてほしい。 ③そうして、写本を使って卒業論文を書いてほしい。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
密教学演習J-II-2	到達目標： 空海の遺言状とみなされてきた『遺告二十五ヶ条』（以下、『御遺告』）は、古来、空海の生涯を考えるとときの根本史料であった。しかし、今日では十世紀半ば以降の成立とみなされ、一次史料とは成りえなくなった。とはいえ、初期の真言宗教団の成立過程を考えるとときには、有力な史料の一つである。そこで、『御遺告』の最古の書本をテキストとして、写本の扱い方と読解力の修得を目標とする。 テーマ：『御遺告』を読む
密教学演習J-II-F	授業の概要 承和二年（835）三月十五日、空海が諸弟子に告げたとみなされてきた『御遺告』を、最古の写本である金剛峯寺本をテキストとして読み、内容の把握と問題点の指摘を通して、その成立年代の解明をめざしたい。最終的には、金剛峯寺本を底本とする校訂本を作成する。
学期	授業計画
準後期	1. 前期に引き続き、受講者に分担していただき、本文を筆写・校訂し、その校訂した本文にもとづいて訓読文と現代語訳を作成する。 2. 受講者は、①分担した個所の本文（写本）をいかに解読したか（筆写・校訂）、②その本文をどのように読んだか（訓読文）、いかに理解したか（現代語訳）、を順番に報告する。
単位数	テキスト
2	金剛寺本『御遺告』一帖（平安中期写本）
担当者	参考書・参考資料等
武内孝善	・『御遺告』の活字本（『定本弘法大師全集』第7巻所収本） ・註釈書類（『続真言宗全書』第26巻） ・柴島 裕『平安時代訓点本論考』汲古書院 ・小林芳規『角筆文献研究導論』（四冊）汲古書院
	学生に対する評価
	授業への参加度（60%）と数回のレポート（40%）とを総合して評価する。
	その他
	④写本が扱えるようになると、活字本だけしか使えないときに比べて、研究範囲が大幅に拡大されます。 ⑤積極的に講義に参加し、写本の扱い方をマスターしてほしい。 ⑥そうして、写本を使って卒業論文を書いてほしい。

科目名	条幅制作ⅠA〔漢字〕
学期	前期
単位数	1
担当者	木本 滋久
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：中国や日本の古典の臨書を通して得た技術で、漢字、近代詩文などの条幅作品を制作する。 授業の概要 ○半切に漢字4～14文字の言葉を楷書体、行書体で創作する。(做書可) ○半切(正方形)に漢詩、漢語を篆書体、隸書体、又は行書体で創作する。(做書可) ○半切に漢字・仮名まじり文を創作する。課題は授業前に提示。 授業計画 1. この授業の内容、授業の進め方、この授業に必要な書道用材(筆・画仙紙・字書類)の説明をする。 2. } 3. } 楷書体と行書体で創作する。提出後、全体で互評会を実施 4. } 5. } 6. } 7. } 8. } 9. } 10. } 11. } 篆書体、隸書体又は行書体で課題を創作。又は漢字仮名まじり文の創作。 12. } 13. } どれかひとつを選び実習する。 14. } 15. } テキスト 特になし。 参考書・参考資料等 字書：『書源』、『角川書道大字典』、二玄社の法帖類 学生に対する評価 提出作品、出席回数、授業の取り組みを総合的に評価する。 その他 各自で事前に『字書』を購入しておくこと 画仙紙は事前に大阪の書道用品店で買っておくこと。 この授業は高野山書道師範を取得を希望する者、書道で卒業論文を書こうとする学生は必修です。かなり習熟した技能を持っていることが要求されます。	

科目名	条幅制作ⅡA〔漢字〕
学期	後期
単位数	1
担当者	木本 滋久
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：金剛峯寺・高野山大学書道師範取得や、卒業制作にふさわしい作品の制作をめざす。 テーマ：臨書でつちかっただけの基礎の上に立って、個性豊かでフレッシュな作品を創作する。 授業の概要 2尺×8尺(52cm×約228cm)の画仙紙に自分で詩や文章を選び創作する 漢詩を選んだ人は、まず字書ですべての文字を調べ一覧表を作成する。それを参考にして字のくづし方を覚える。漢字仮名まじり文を書こうとする人は、全体の構成や空間のとり方など工夫し、漢字と仮名の調和も考えて製作をすすめる。 提出後、全体で互評会を実施。 授業計画 1. } 2. } 3. } 4. } 2尺×8尺(たて228cm×よこ52cm)の紙面に、書体、題材も自由で受講生が個性と創作意欲にあふれた作品を制作。 5. } 6. } 題材、書体は途中変更も可能であるから、試行錯誤をくりかえしながら少しずつ作品が向上する。書き込むより他に道はないと思い、時間外でもしっかり取り組んで欲しい。 7. } 8. } 9. } 早く仕上がった人は、書体を変えたり、題材を変えたり(漢字仮名まじり文でも可)して小品を制作したらいい。 10. } 11. } 12. } 13. } 14. } 落款印を押して授業の終わりに提出。 15. } 提出した作品の鑑賞会実施。 テキスト 特になし。 参考書・参考資料等 字書や二玄社の法帖類、各展覧会の作品集等。 学生に対する評価 提出作品、出席回数、授業の取り組みを総合的に評価する。 その他 2尺×8尺の作品は評価の後、2月の高野山大学外書道展に出品していただきます。表装は各自の負担とします。	

科目名	条幅制作ⅠB〔かな〕
学期	前期
単位数	1
担当者	山本 圭子
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：古来より机上作品であった「かな」を条幅作品として表現する方法を身につける。 テーマ：古筆の拡大臨書をもとに細字作品を条幅作品として仕上げるために何が必要かを知り、創作していく。 授業の概要 古筆の拡大臨書から条幅作品として個性的な表現を加えていく。 条幅に表現するという事は筆者の人間性の深さ・生命感情の躍動の強さを「かな」を用いて十分に表現することである。そのため大きく影響する用具用材についての知識も必要である。 授業計画 1. 条幅「かな」の解説・用具・用材等の説明。 2. 既成作品を鑑賞し、全体像を知る。 3. } 4. } 5. } 高野切第三種から一首えらび、たて135cm×横35cmの紙に拡大臨書をする。条幅として仕上げるために何が必要かを添削を通して身につける。 6. } 7. } 8. } 9. } 10. } 11. } たて135cm×横35cmの紙に創作する。 12. } 各自歌一首を選び、個性豊かな作品に仕上げる。 13. } 適宜添削する。 14. } 15. } テキスト 特になし。 参考書・参考資料等 古筆全般 既成作品 かな字典 学生に対する評価 拡大作品・創作作品を中心に、とりくむ姿勢、出席を加味して評価する。3分の1以上欠席者は評価しません。 その他 ・漢字Ⅰ、かなⅠを受講済みであること。 ・全授業出席する気持ちが大事。実習しなければ身につけません。 ・知識として知るだけでは自己表現できないことをよく知ってほしい。目習いというように見る力をつけることも重要で。	

科目名	条幅制作ⅡB〔かな〕
学期	後期
単位数	1
担当者	山本 圭子
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：数種の大きさの紙に自分の感動をより豊かに表現すること。 テーマ：かなの美を条幅作品に表現する。自分の選んだ題材を自分の感情により的確に表現していくため、その内容にふさわしい自己の線質等を追求していく。 授業の概要 現代性を表現するため、現代詩などを題材として制作する。 また古歌・古詩等であっても現代に生きる作品としていくために何が必要かを追求していく。 授業計画 1. } 2. } 3. } 75cm×75cmの紙に漢字かなまじり文を寸松庵色紙等を参考に散らしの方法を加えて制作する。 4. } 5. } 既成作品等を参考に、適宜添削、指導をする。 6. } 7. } できあがった作品の互評会を行い、作品造りの参考にする。 8. } 9. } 10. } 228cm×52cmの紙をたて・横自由に使い、スケールの大きな個性豊かな作品を仕上げていく。 11. } 12. } 「かな」であることをいつも意識下におき、制作する。 13. } 互評会を行う。 14. } 15. } テキスト 特になし。 参考書・参考資料等 三色紙 かな字典 学生に対する評価 かな作品としての特徴を活かしているかを中心に評価する。 全時間出席して、技法を身につけようとしているかの努力、姿勢を重視する。 3分の1以上欠席者は評価しません。 その他 ・受講者は、漢字Ⅰ、かなⅠ、条幅制作Ⅰ〔かな〕を受講済みであること。 ・初めてのかな条幅となると思うので、挑戦する気持ちと、初めてのことをよく知ろうとする謙虚さが重要です。	

科目名	授業の到達目標及びテーマ
総合科目(スピリチュアルケア理論)	到達目標：現場でスピリチュアルなケアを実践するときに知っておくべき基礎的な諸理論と、それを支える仏教の瞑想的智慧について、知性と感性のバランスをとりながら学ぶ。 テーマ：実践と理論をつなぐための学び
学期	後期
後期	
単位数	2
担当者	井上ウィマラ
授業の概要	スピリチュアルケアの歴史的背景と仏教が内包しているスピリチュアルなケアの可能性を検討し、人生の意味や価値にまつわる死生観などを概観しながら、理論と実践をつなぐための小レッスンを交えて授業を展開する。
授業計画	1. 自己紹介と授業の流れについて(ホスピス運動の歴史的背景と本質) 2. 仏教における瞑想的実践としての看護・看取り活動 3. 解脱とケアする力 4. 悟りと対象喪失理論 5. 悲しむ力と育む力 6. 精神的健康の基盤としての愛着理論 7. ライフサイクル理論 8. 自己実現と欲求の5段階説 9. 四摂法と育みあう心 10. 人生で大切な5つの仕事 11. 仏教心理学の可能性 12. 移行対象と祈りの力 13. 中道：アンビバレンスを見守る器 14. 解脱と俯瞰的視点としてのスピリチュアリティ 15. ふりかえりとまとめ
テキスト	『スピリチュアルケアへのガイド』 窪寺俊之・井上ウィマラ 『看護と生老病死』 井上ウィマラ 三輪書店
参考書・参考資料等	そのつど必要に応じて提示する。
学生に対する評価	平常点(30%)と参加態度(30%)、期末試験あるいはレポート(40%)によって評価する。
その他	

科目名	授業の到達目標及びテーマ
企画科目(スピリチュアルケア援助論Ⅰ)	到達目標：自分自身を知る能力(自己覚知)を育むために、仏教のウィパッサナー(観)瞑想を基本とした意識の育み方を学ぶ。 テーマ：自分を知ることについて。
学期	前期
前期	
単位数	2
担当者	井上ウィマラ
授業の概要	授業の最初にみんなの息を合わせるために「三宝帰依の歌」を歌い、「呼吸による気づき経」を読誦し、15分ほど呼吸瞑想をする。その後、さまざまな瞑想的エクササイズを行い、ふりかえりと話し合いを通して体験的に学習を深めてゆく。
授業計画	1. 自己紹介と授業の進め方について(スピリチュアルケアとは何か?) 2. 如実知見と如実知自心(自分を知ることの大切さ) 3. 身体感覚に心を開く：受(vedanā)を探る 4. 「出入息経」から学ぶ 5. 「出入息経」から学ぶ 6. 呼吸に触れる 7. 呼吸のモニタリング 8. 中間のふりかえり 9. 思考や感情との付き合い方 10. 三業の心理学 11. マインドフルネス瞑想の系譜 12. 慈悲喜捨に学ぶ 13. 息づかいのメッセージ 14. 4つの滋養(āhāra)に学ぶ 15. ふりかえりとまとめ
テキスト	『看護と生老病死』 井上ウィマラ 三輪書店
参考書・参考資料等	『スピリチュアルケアへのガイド』 窪寺俊之・井上ウィマラ 青海社 『人生で大切な5つの仕事』 井上ウィマラ 春秋社
学生に対する評価	平常点(30%)と参加態度(30%)、期末レポート(40%)で評価します。
その他	できるだけ動きやすい服装で参加してください。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
企画科目(スピリチュアルケア援助論Ⅱ)	到達目標：他者との関係の中に浮かび上がってくる自分のパターンに気づき、より自然体に近いコミュニケーションの可能性を探る。共感と傾聴の基本を身につける。 テーマ：関係性とコミュニケーションスキルに関する気づきを養う。
学期	後期
後期	
単位数	2
担当者	井上ウィマラ
授業の概要	最初にみんなの息を合わせるために「慈しみの歌」を歌い、「気づきの確立経」を読誦し、10分ほど呼吸瞑想をする。その後、瞑想的エクササイズやロール・プレイなどを行い、ふりかえりと話し合いによって体験学習を深める。
授業計画	1. 自己紹介と授業の進め方について。(スピリチュアリティと仏教瞑想について) 2. 進化における人間存在とケア 3. ミラーリング(ミラーニューロンについて) 4. ミラーリングその2 5. 5分間トーク(静かに傾聴する心について学ぶ) 6. レーゾンの折り(自分の心がいかに世界に映し出されるかについて学ぶ) 7. 中間のふりかえり 8. 自己紹介(情報収集とプレゼンテーションの中に映し出される自分) 9. ミニカウンセリング：「最近起こったこと」というテーマでのロールプレイ 10. ミニカウンセリング：会話録 11. ミニカウンセリング：よいカウンセラーに必要なもの 12. 看病と看取りという修行 13. 四無量心と中道とケア 14. 最期の一息の看取り 15. ふりかえりとまとめ
テキスト	『看護と生老病死』 井上ウィマラ 三輪書店
参考書・参考資料等	『ブッダのサイコセラピー』 M. エプスタイン 春秋社 『人間関係性トレーニング』 ナカニシヤ書店
学生に対する評価	平常点(30%)と参加態度(30%)、期末レポート(40%)で評価する。
その他	動きやすい服装で参加してください。ミニカウンセリングでは、テーブルコーダーなどの録音機器が必要ですので準備しておいてください。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
社会福祉各論(障害者福祉)	到達目標：障害者福祉の制度と政策・障害者福祉の体系と実践。
学期	前期
前期	
単位数	2
担当者	山口幸照
授業の概要	障害者に対する支援と障害者自立支援制度を学び、障害者のおかれている社会情勢を理解する。 障害者の生活実態や地域生活の体制を理解し障害者の置かれている立場を考えることとする。 障害者の見方とその背景について理解し、照愛車の定義と概念を理解する。
授業計画	(1). 障害者を取りまく状況と諸問題 (1). 障害者のための総合的対策 (1). 障害者の特性・健康・家族・地域社会 (1). 障害者の法体系 (1). 自立支援支援の体系 (1). 施設サービスと在宅サービス (1). 保健・医療・福祉の連携 (1). 障害者の相談援助活動の実態
テキスト	社会福祉士養成講座「障害者福祉論」中央法規出版
参考書・参考資料等	講義の中で必要に応じ指示する。
学生に対する評価	出席・レポート・筆記試験を総合して評価する。 具体的には、4分の3以上の出席・レポートの提出・筆記試験の内容をすべて考慮し評価する。
その他	出席が少ない場合は不可とする。

科目名	心理学Ⅰ (別)
授業の到達目標及びテーマ	到達目標：心理学の基本的な知識を習得する。 テーマ：フロイトに始まる心理学の系譜に沿って、自我心理学や発達心理学を中心に心理学を理解する。
授業の概要	この授業では、心理学全般について紹介する。フロイト由来の自我心理学や発達心理学を中心に、人間の心の成長を考える。人間存在の実相を概観しながら、心のしくみとその成長のプロセスを理解する。
授業計画	1. オリエンテーション、授業計画の説明、心理学の歴史とその全体的な枠組みの紹介する。 2. 実験心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など、心理学の多様性とその関連性。 3. フロイトの思想とその人生について。 4. フロイトの考えた意識・無意識の理論、リビドーという概念について。 5. 心的外傷理論、エディプスコンプレックスなど、フロイト由来の様々な概念について。 6. ユング心理学の紹介、アニマ、タナトス等、ユング心理学の獨創性。 7. エリクソンの自我心理学、エリクソンの人生と研究との関連性。 8. エリクソンのライフサイクル論について（その1）、乳児期、幼児期初期、児童期。 9. エリクソンのライフサイクル論について（その2）、青年期、前成人期、アイデンティティ考察。 10. エリクソンのライフサイクル論について（その3）、成年期、老年期。 11. ピアジェの子ども発達理論の紹介。 12. プルナーの発達論の紹介。 13. コールバーグの道徳性心理学の紹介。自尊感情、正義、倫理観の発達。 14. ノディングスの「ケアリング」論、「善い」と「正しい」の関連性。 15. まとめ。授業を振り返り、疑問点等、復習する。
テキスト	特に指定しない。授業の中で適宜、プリントを配布する。
参考書・参考資料等	『フロイト思想のキーワード』小此木啓吾著、講談社現代新書 『エリクソンの人間学』西平直著、東京大学出版会 『アイデンティティ研究の展望 1』、ナカニシヤ書店 『アイデンティティとライフサイクル論』、鍾幹八郎著、ナカニシヤ書店
学生に対する評価	平常点を重視する。小レポートを1回提出してもらう（学期末の試験の成績に加算する）。
その他	毎回、出席をとる。配布した資料や参考文書を必ず読むこと。
学期	前期
単位数	2
担当者	戸来知子

科目名	心理学Ⅱ (別)
授業の到達目標及びテーマ	到達目標：心理学とは、どのような学問かを理解し、その基本的な知識を習得する。カウンセリングの理論の基礎知識を学ぶ。 テーマ：フロイト由来の心理学から派生した、様々な心理学の理論を学ぶ。臨床心理学やカウンセリングの分野を中心に学習する。
授業の概要	前期の「心理学Ⅰ」に続く授業とする。臨床心理学やカウンセリングの基礎となっている心理学を学習する。また、人間の心の概念の他、性格や人格についても学習する。
授業計画	1. オリエンテーション。授業の進め方、授業計画。心理学の歴史とその全体像の紹介。 2. 様々な心理学の紹介。現在の臨床心理学の成り立ちについて。 3. 人間の心についての理解。フロイトやユングの心の概念。 4. ライフサイクル論について（エリクソン、レビンソン等）。 5. マズローの自己実現の理論。 6. ロジャースのカウンセリング理論（その1）、ロジャースの理論の基礎。 7. ロジャースのカウンセリング理論（その2）、クライアント中心療法。 8. マズローの自己実現の理論の概要。 9. アドラー心理学の基礎理論の紹介。 10. アイゼンクの性格類型論。リコーナの性格の理論について。 11. オールポートの人格心理学の紹介。 12. 様々な心理療法について。認知行動療法。内観法。自由連想法等。 13. パーソナリティーの障害について。 14. 境界性人格障害について理解を深める。 15. まとめ。疑問点の再確認等。
テキスト	特に指定しない。授業の中で適宜、プリントを配布する。
参考書・参考資料等	『フロイト思想のキーワード』小此木啓吾著、講談社現代新書 『アイデンティティ研究の展望 1』、ナカニシヤ書店
学生に対する評価	平常点を重視する。小レポートを1回提出してもらう（学期末の試験の成績に加算する）。
その他	毎回、出席をとる。理解を深めるために、授業中に配布する資料を必ず読むこと。
学期	後期
単位数	2
担当者	戸来知子

科目名	老人福祉論Ⅱ (高齢者福祉)
授業の到達目標及びテーマ	到達目標：我が国の児童・家族の現状と児童福祉の必要性について学生が十分に理解をすることを到達目標とする。 テーマ：我が国の児童・家族の現状と児童福祉政策の実態
授業の概要	進展する高齢社会は、これから団塊の世代が高齢期になることでいよいよ本格化する。そのような中で社会福祉分野ではじめて社会保険制度による方式つまり介護保険制度が導入された。当然その前提となる福祉理念も大きく変化することとなった。 ここでは、最新の福祉理念を盛り込んだ高齢者福祉制度を学ぶと同時に、高齢者をとりまく医療・保健その他関連制度も学ぶこととする。
授業計画	(1) 少子高齢社会の到来 (1) 高齢者をとりまく状況と諸問題 (1) 高齢者のための総合的対策 (1) 高齢者の特性・健康・家族・地域社会 (1) 老人福祉法・介護保険法・老人保健法 (1) 高齢者生活支援の体系 (1) 施設サービスと在宅サービス (1) ボランティア活動と社会福祉協議会 (1) 高齢者と生きがい・社会参加活動 (1) 保健・医療・福祉の連携 (1) 高齢者の相談援助活動の実態
テキスト	社会福祉士養成講座「高齢者福祉論」中央法規出版
参考書・参考資料等	講義の中で必要に応じ指示する。
学生に対する評価	出席・レポート・筆記試験を総合して評価する。 具体的には、4分の3以上の出席・レポートの提出・筆記試験の内容をすべて考慮し評価する。
その他	出席が少ない場合は不可とする。
学期	後期
単位数	2
担当者	山口幸照

科目名	児童福祉論Ⅰ (児童福祉)
授業の到達目標及びテーマ	到達目標：我が国の児童・家族の現状と児童福祉の必要性について学生が十分に理解をすることを到達目標とする。 テーマ：我が国の児童・家族の現状と児童福祉政策の実態
授業の概要	我が国の子どもや家族の現状とニーズを把握し、これに対する社会福祉政策がどのように進展してきたかを概観する。さらに、現在の子どもを取り巻く社会の実態を理解し、諸外国（イギリス・オランダ・ドイツ）の取り組みとの比較を行う。
授業計画	1. オリエンテーション 授業内容の解説と自己紹介 2. 児童福祉の理念 3. 児童福祉の概念と歴史 4. 現代社会と児童家庭福祉 5. 少子・高齢社会における福祉課題 6. 児童福祉の法体系と実施体制 7. 児童福祉法 8. 母子保健 9. 児童福祉法に基づく障害児の福祉 10. 保育 11. 児童虐待 12. ひとり親家庭の福祉 13. 児童虐待防止と学校の役割 14. 児童福祉援助活動の実態 15. 期末試験
テキスト	『児童虐待防止と学校の役割』信山社 2005 新・社会福祉士養成講座『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度－児童福祉論』中央法規
参考書・参考資料等	『現代福祉学レクシコン第二版』雄山閣出版 『社会福祉法制度要説』有斐閣
学生に対する評価	平常点30%（毎回出席を取る）、レポート40%、期末試験30%で評価する。
その他	児童福祉は政治や経済などと大きく関連しているので、社会の動きに関心を持つこと。
学期	集中
単位数	2
担当者	齋藤尚子

科目名	仏教心理学特殊講義D
授業の到達目標及びテーマ	到達目標：仏教における心の論じ方を学び、併せて、現代の脳/心の哲学における論点との接点・乖離点についての知見を得得すること テーマ：仏教における心の論じ方
授業の概要	心について、ブッダの教えの中では、直き心として、あるいは、日々刻々に移り変わる心として説き示されることがある一方で、(死後)上昇して行く心について説かれることがある。そして、ブッダ以後には、無心と呼ばれる心が、あるいは、覚りを求める心が、教義解釈上の問題となることがある。これらの心を巡る諸議論を考察する。
授業計画	1. 導入 2. ブッダの言葉の伝承(「経」)から学ぶ「心」 3. (同上、「ダンマパダ」・「スッタニパータ」から) 4. (同上、パーリ・ニカーヤの『マッジマ・ニカーヤ』・『サムユッタ・ニカーヤ』の中から) 5. (同上、漢訳の四阿含の中から) 6. アビダルマ(「論」)において分析された「心」 7. (同上、特に「阿毘達磨俱舍論」における「心」・「心所」分析) 8. 大乘論書において考察された「心」 9. (同上、「無心」から捉える「心」の二側面:「空」なる心と「唯心」の心) 10. (同上、「唯識」という捉え方) 11. 生命倫理の分野における脳/心についての諸論点 12. 脳神経倫理の分野における脳/心についての諸論点 13. 心について考えている心(という言語表現)の問題について 14. (同上) 15. 学年末試験
学期	前期
単位数	2
担当者	室寺義仁
参考書・参考資料等	授業の中で、適宜、紹介する。
学生に対する評価	学年末の論述式試験(60%)と、授業という学術的な対話の場での平常点(40%)で評価する。
その他	

科目名	スピリチュアルケア援助論Ⅲ
授業の到達目標及びテーマ	到達目標：カウンセリングの基本的知識と技能について学ぶ テーマ：伝える姿勢、聴く姿勢を身につける
授業の概要	この講義では、カウンセリングの基本的な過程及び基本的知識と技能について学びます。カウンセリングは「傾聴」することが重視されますが、実は、カウンセラーが的確にクライアント(相談者)の感情をまとめ「伝える」こと、また、カウンセラーの「正直な気持ち」を上手に「伝える」ことの方が困難であり、この「伝える」力が問われます。つまり、カウンセリングとは、カウンセラーのコミュニケーション力・社会性によって左右されます。この力は、自己と他者の理解が必要不可欠です。本講義では、コミュニケーション力に力点を置いて、「傾聴」する姿勢について考えていきたいと思います。
授業計画	1. カウンセリングの定義と種類 2. カウンセリング関係の3段階 3. カウンセラーに求められる条件 4. 「伝える」技術(1) 自身のことについて知る 5. 「伝える」技術(2) アサーション・トレーニング 6. 「伝える」技術(3) 自身のことについて語る 7. 社会性について学ぶ(1) 他者の理解 8. 社会性について学ぶ(2) 他者との関係 9. 社会性について学ぶ(3) 社会と個人の関 10. 「聴く」技術(1) 11. 「聴く」技術(2) 12. 「聴く」技術(3) 13. ロール・プレイング(1) 三者関係としての面接 14. ロール・プレイング(2) 二者関係としての面接 15. まとめ
学期	前期
単位数	2
担当者	森崎雅好
テキスト	国分康孝『カウンセリングの技法』(誠信書房 1996年)
参考書・参考資料等	適時、紹介する。
学生に対する評価	平常点40%、レポート60%
その他	カウンセリングは、人と人との生きた交流が基本です。交流するためには、コミュニケーション力が求められます。自分自身が自分や他者に「開かれた」態度を有さずして、他者の話や気持ちを聴くことはできません。自己を語り、他者の語りに耳を傾ける、そんな姿勢を身につけてもらいたいと思います。

科目名	スピリチュアルケア援助論Ⅳ
授業の到達目標及びテーマ	到達目標：カウンセリングの基礎的知識と技法を、諸理論を学ぶことでさらに知見を広げ、深めていく テーマ：臨床心理学の様々な理論と技能を知る。
授業の概要	前期で学んだ基本的なカウンセリングの知識や技法を、諸理論を学ぶことでさらに知見を広げ、深めることを目的とします。本講義では、主な臨床心理学の諸理論とその技法を紹介していきます。カウンセリングを行うためには、人間理解のための「理論」が役に立ちます。自身にあった理論と出会い、そして、ある理論を選択することは、その個人の「人間に対する態度」を示しています。自身の人間観と向き合う機会を提供することを本講義の目的としています。
授業計画	1. ガイダンス：心を理解するための諸理論 2. 精神分析(1) 3. 精神分析(2) 4. 箱庭療法(1) 5. 箱庭療法(2) 6. クライエント中心療法(1) 7. クライエント中心療法(2) 8. 認知行動療法(1) 9. 認知行動療法(2) 10. プレイセラピー(1) 11. プレイセラピー(2) 12. 家族療法(1) 13. 家族療法(2) 14. 臨床現場と理論 15. まとめ
学期	後期
単位数	2
担当者	森崎雅好
参考書・参考資料等	適時、紹介します。
学生に対する評価	平常点40%、レポート60%
その他	本講義で紹介する理論は、基本的な理論です。現在も臨床心理学の理論は日々発展しています。皆さんにとって他の様々な理論を学ぶきっかけになること、自身の人間観を養うことにつながるように、本講義をすすめることもテーマの一つです。

科目名	スピリチュアルケア援助論Ⅰ
授業の到達目標及びテーマ	到達目標：仏教の解脱の智慧とキューブラー・ロスの死の受容への5段階説の背景を比較しながら考察することによって、仏教を現代社会に応用実践するための基盤を養う。 テーマ：解脱と死の受容について。
授業の概要	前半は、テキストを輪読しながら丁寧に吟味する。後半は、5段階の各章を分担して要約しプレゼンテーションしながら議論を深めていく。
授業計画	1. 自己紹介と授業の進め方(キューブラー・ロスの人生について) 2. キューブラー・ロスの人生について：ビデオを通した考察 3. 第1章「死の恐怖について」を読む。 4. 第2章「死とその過程に対するさまざまな姿勢」 5. 死念(maraṇasati)について学ぶ 6. 対象喪失理論について 7. 仏教的グリーフ・ケアの可能性を探る 8. 第3章「第一段階：否認と孤立」 9. 第4章「第二段階：怒り」 10. 第5章「第三段階：取り引き」 11. 第6章「第四段階：抑鬱」 12. 第7章「第五段階：受容」 13. 宗教儀礼の意味と可能性を探る 14. 解脱はケアに何を提供するか 15. ふりかえりとまとめ
学期	前期
単位数	2
担当者	井上ウイマ
テキスト	『死ぬ瞬間』E・キューブラー・ロス 中公文庫
参考書・参考資料等	『人生は廻る輪のように』E・キューブラー・ロス 角川文庫 『対象喪失』小此木啓吾 中公新書 『看護と生老病死』井上ウイマ 三輪書店
学生に対する評価	平常点(30%)と参加態度(30%)、期末試験あるいはレポート(40%)で評価する。
その他	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：発達検査、知能検査の基礎知識とアセスメントを学ぶ。 テーマ：軽度発達障害をもつ子どもの理解と援助
臨床心理学心理テスト実習Ⅰ	
学期	
前期	
単位数	
2	
担当者	
森崎雅好	
授業の概要	軽度発達障害（学習障害や注意欠陥／多動性障害、高機能自閉症など）を持つ子どもたちの理解と支援のためには、特に認知的な面での正確なアセスメントが必須です。本講義では、様々な発達検査及び知能検査の基礎的な知識とアセスメントの実践を学びます。受講生が検査者と被験者の役割をとりながら学習を進めます。特に、新版K式発達検査とWISC-Ⅲ知能検査の習熟に焦点をあてています。乳幼児健診での障害の早期発見、学童期以降の軽度発達障害のアセスメントと具体的な援助への応用について、実習と事例を通じて実施法から解釈までを講義します。
授業計画	各1～4. 発達検査について学ぶ（新版K式・遠城寺式・DAMグッドナイフ人物画など） 5～7. 知能検査について学ぶⅠ（田中ビネー・ITPA・K-ABC） 8～10. 知能検査について学ぶⅡ（WISC-Ⅲ・WPPSI・WAIS） 11. 心理アセスメントの3つの要素（検査技術・解釈・指導への活用） 12. 心理アセスメントの内容（テスト・バッテリー） 13. 報告書の作成方法と結果の伝え方について 14. 発達検査の結果の解釈と指導支援への展開 15. アセスメントから個別の指導計画作成へ
テキスト	上野一彦他『軽度発達障害の心理アセスメント』（日本文化科学社 2005 年）
参考書・参考資料等	適時、紹介する。
学生に対する評価	平常点 40%、レポート 60%
その他	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：心理検査の査定技法の習得を目指す。 テーマ：臨床場面で用いられている投影法・質問紙法の実施方法及び解釈について学ぶ。
臨床心理学心理テスト実習Ⅱ	
学期	
後期	
単位数	
2	
担当者	
森崎雅好	
授業の概要	臨床場面で一般に用いられている心理検査（投影法・質問紙法）とともに、査定技法の基礎の習得を目指します。心理査定とは、様々な情報の収集とその分析による来談者の理解及び処遇方針決定のための方法と過程のことをいいます。そのためには、来談者自身の人格特性や発達水準、様々な社会的能力の評価のみならず、その人を取りまく家族力動や環境、さらに援助資源などの外的環境の査定も内容として含まれます。本実習では、投影法・質問紙法を主とした心理テストの実施方法及び解釈方法を学習すること、検査・面接場面での行動観察のポイントを理解することを目標とします。
授業計画	1. 心理査定とは 2. 心理査定のために必要な情報・面接・心理テスト・観察法について 3～6. 描画法を学ぶ（バウムテスト・人物画・家族画など） 7～9. 風景構成法を学ぶ 10～12. 質問紙法・半投影法を学ぶ（MMPI・SCT・P-F スタディなど） 13～14. TAT を学ぶ 15. まとめ
テキスト	赤塚大樹他『心理臨床アセスメント入門』（培風館 1996 年）
参考書・参考資料等	適時、紹介する。
学生に対する評価	平常点 40%、レポート 60%
その他	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：社会経済状況の変化とそれに伴う国民生活の変容に対応して、歴史的に発展してきた社会福祉の概念と役割について理解する テーマ：社会福祉の基礎的理解
社会福祉概論ⅠⅠ	
学期	
前期	
単位数	
2	
担当者	
山口幸照	
授業の概要	社会福祉全般について、基礎的な事項について学習する。歴史と現状についてわかりやすく解説し、平易に理解することを目的とする。
授業計画	1. 現代社会と社会福祉その1 2. 現代社会と社会福祉その2 3. 社会福祉の対象分野と福祉ニードその1 4. 社会福祉の対象分野と福祉ニードその2 5. 社会福祉援助活動の意義・組織・方法その1 6. 社会福祉援助活動の意義・組織・方法その2 7. 社会福祉援助活動の担い手その1 8. 社会福祉援助活動の担い手その2 9. 社会福祉の法と行財政その1 10. 社会福祉の法と行財政その2 11. 社会福祉の運営問題その1 12. 社会福祉の運営問題その2 13. 社会福祉運営の原理と枠組みその1 14. 社会福祉運営の原理と枠組みその2
テキスト	社会福祉士養成講座「社会福祉原論」中央法規出版
参考書・参考資料等	「社会福祉士のための基礎知識」Ⅰ～Ⅲ 中央法規出版
学生に対する評価	出席率・レポート・筆記試験を総合して評価する。
その他	出席が少ない場合は不可とする。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：わが国の社会福祉の法制度、運営実施体制、施設及び在宅福祉、財政等の仕組みやその具体的な内容について近年の堂宇も含め学習する。 テーマ：社会福祉の具体的な内容を把握する
社会福祉概論ⅡⅡ	
学期	
後期	
単位数	
2	
担当者	
山口幸照	
授業の概要	社会具駆使の今日的以後及び近年の動向について全体的に理解する。社会福祉援助技術の原理原則を中心に、その具体的方法の概要について学習する。社会福祉士や介護福祉士等の福祉マンパワーの概要を学習する。
授業計画	1. 社会福祉の運営システムその1 2. 社会福祉の運営システムその2 3. 社会福祉の行政組織その1 4. 社会福祉の行政組織その2 5. 社会福祉法人の組織と運営その1 6. 社会福祉法人の組織と運営その2 7. 社会福祉従事者の現状と課題その1 8. 社会福祉従事者の現状と課題その2 9. 社会福祉供給システムその1 10. 社会福祉供給システムその2 11. 民間福祉サービスの組織と運営その1 12. 民間福祉サービスの組織と運営その2 13. 福祉産業の振興と開発その1 14. 福祉産業の振興と開発その2
テキスト	社会福祉士養成講座「社会福祉原論」中央法規出版
参考書・参考資料等	「社会福祉士のための基礎知識」Ⅰ～Ⅲ 中央法規出版
学生に対する評価	出席率・レポート・筆記試験を総合して評価する。
その他	出席が少ない場合は不可とする。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
地域社会福祉論Ⅰ(別論Ⅰ)	到達目標：地域福祉の言葉の意味や考え方、概念規定について学習する。地域福祉は比較的新しい概念である。その内容について学習する。 テーマ：地域福祉の概念と展開方法
〔地域福祉〕	授業の概要 地域福祉は1990年以降本格的に実体化したものである。しかし、現代では社会福祉実践そのものを指す言葉として使われることが多い。ここでは実質上社会福祉と同義語となった地域福祉の概念と展開方法について学習する。
学期	授業計画 1. 地域福祉のあゆみ 2. 地域福祉の概念 3. 地域福祉の内容 4. 地域福祉の背景 5. 地域福祉の歴史・地域福祉準備期 6. 地域福祉の歴史・体系期 7. 地域福祉の歴史・基盤形成期 8. 地域福祉の歴史・展開期 9. セツルメントの理解 10. コミュニティーケア 11. コミュニティープラン 12. 在宅福祉サービス 13. 福祉コード把握と地域社会 14. 福祉サービスの連携 15. コミュニティー形成・住民参加
前期	テキスト 社会福祉士養成講座「地域福祉論」中央法規出版
単位数	2
担当者	参考書・参考資料等 「社会福祉士のための基礎知識」Ⅰ～Ⅲ 中央法規出版
山口幸照	学生に対する評価 出席率・レポート・筆記試験を総合して評価する。 その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
地域社会福祉論Ⅱ(別論Ⅱ)	到達目標：地域福祉の目標として福祉コミュニティの形成がある。地域を基盤とした社会福祉をみんなでどのように作っていくのかについて考えたい。 テーマ：地域福祉の方法と実践課題
〔地域福祉〕	授業の概要 地域福祉実践を展開するには①福祉・保健・医療の整備②福祉・保健・医療の総合化③福祉増進・予防活動の促進④福祉環境の整備⑤住民参加活動の支援が必要となる。この5つを柱に地域福祉実践について学習する。
学期	授業計画 1. 相談・情報提供サービスの総合化 2. ケアマネジメント 3. 老人保健福祉計画 4. 福祉増進・予防活動 5. 福祉環境づくり 6. 住民参加の福祉活動支援 7. ボランティア活動・福祉教育 8. NPOの福祉活動 9. 民生委員・児童委員 10. 社会福祉協議会 11. 社会福祉施設 12. 地域組織化と福祉組織化 13. 公的財源 14. 共同募金 15. 民間財源
後期	テキスト 社会福祉士養成講座「地域福祉論」中央法規出版
単位数	2
担当者	参考書・参考資料等 「社会福祉士のための基礎知識」Ⅰ～Ⅲ 中央法規出版
山口幸照	学生に対する評価 出席率・レポート・筆記試験を総合して評価する。 その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
仏教スピリチュアルケア援助論Ⅶ	到達目標：他者と共感することの意味を知り、他者と共感し得る感性を養う。 テーマ：スピリチュアルケアとは、あらゆる場面・状況下にあっても、他者と共感することが最も大切であるため、「共感」「共鳴」の意味を知り、できるだけあらゆるものと共感・共鳴できる感性と直感を身につけるための実践的訓練を行います。
〔スピリチュアルケア援助論Ⅶ〕	授業の概要 授業テーマに即して、共感・共鳴することの意味を知るために、音楽や文学や武道などが持っている精神性の深さを身をもって受容する訓練を行う。
学期	授業計画 1. オリエンテーション 2. 詩の朗読を通して自分の「音」(声)探しをする。 3. 同上 4. 読経することによる呼吸法と発声の訓練を行う。 5. 同上 6. 同上 7. 俳句や短歌、川柳の読解力を訓練することによって「共感」の意味を知る。 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 以上の訓練が実際のスピリチュアルケアの現場でどのように生かされるかについて考える。 15. 同上
後期	テキスト 必要に応じて授業時にコピーして配布する。
単位数	2
担当者	参考書・参考資料等 必要に応じて授業時に紹介する。
前谷彰	学生に対する評価 出席率と授業時の態度とで総合的に評価する。筆記試験もレポートもなし。 その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
仏教スピリチュアルケア援助論Ⅷ	到達目標：悲しみに寄り添う姿勢について「考える」力を身につける。 テーマ：グリーフケアを学ぶ
〔スピリチュアルケア援助論Ⅷ〕	授業の概要 「グリーフ (grief)」は「悲嘆」を意味し、この悲嘆を受け入れる作業を「グリーフワーク」と言います。また、「グリーフケア」とは、その作業を支援することを指します。人生には必ず出会いと別れがあり、常にこの「悲嘆」と向かい合うことの連続です。生老病死を「苦」と捉え、その苦からの解放を説く仏教を学ぶことは、臨床の現場に大きな示唆を与えてくれます。本講義は、「グリーフケア」について、心理学的観点を踏まえつつ、適時、仏典をひも解きながら、ケアの姿勢の在り方を一緒に考えていきたいと思います。
学期	授業計画 1. 死と死別について 2. 悲嘆について 3. 誕生と死 (1) 4. 誕生と死 (2) 5. 老いと死 (1) 6. 老いと死 (2) 7. 病と死 (1) 8. 病と死 (2) 9. 犯罪被害と複雑性悲嘆 (1) 10. 犯罪被害と複雑性悲嘆 (2) 11. 自殺と自死遺族支援 (1) 12. 自殺と自死遺族支援 (2) 13. グリーフケアと仏教 (1) 14. グリーフケアと仏教 (2) 15. まとめ
後期	テキスト 適時、紹介する。
単位数	2
担当者	参考書・参考資料等 適時、紹介する。
森崎雅好	学生に対する評価 平常点 40%、レポート 60% その他 悲嘆の支援は、支援者自身の「いのち存在」への姿勢が問われます。すなわち、自身の人間観、人生観、死生観をしっかりと認識することが求められます。常に自と他の「いのち」について考える姿勢をもって、講義に臨んでください。